
和光市
地域福祉に関するアンケート調査
(①市民)
報告書

令和7年2月

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査の実施について	1
3. 有効回答件数及び回答率	1
4. 報告書の見方	1
II. 集計結果	2
1. あなたご自身とご家族のことについて	2
2. 近所付き合い、地域の暮らしについて	6
3. 市民同士の支え合い、地域活動について	11
4. 暮らしのことについて	19
5. 福祉サービスについて	22
6. 災害対策について	25
7. 権利擁護支援について	29
8. 更生を支援するまちづくりについて（再犯防止について）	34
9. 困難な問題を抱える女性支援制度について	41
10. 自由意見	44

I. 調査の概要

1. 調査目的

「第五次和光市地域福祉計画・和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画」（令和８年度～令和１２年度）を策定する基礎資料とすることを目的に、地域福祉に関する意識や考え方について調査を実施した。

2. 調査の実施について

対象者	本市在住の 16 歳以上の方 1,200 人
実施期間	令和 6 年 11 月 28 日（木）～令和 6 年 12 月 23 日（月）
実施方法	紙調査票及び Web 調査フォーム

3. 有効回答件数及び回答率

配布数	回答数	回答率	有効回答数	有効回答率
1,200 件	493 件	41.1%	488 件	40.7%

4. 報告書の見方

- （１）回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0％を前後することがある。
- （２）複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0％を超える。なお、複数回答を求める質問についての図表上の表記は、以下のとおりである。

「MA％」（Multiple Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

「2 LA％」（2 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを 2 つ以内で選択する場合

「3 LA％」（3 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合

- （３）本文中のグラフや数表で、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

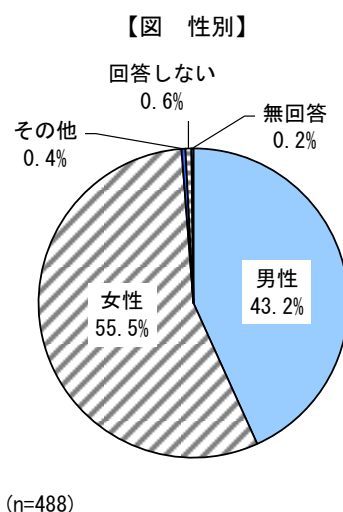
Ⅱ. 集計結果

1. あなたご自身とご家族のことについて

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

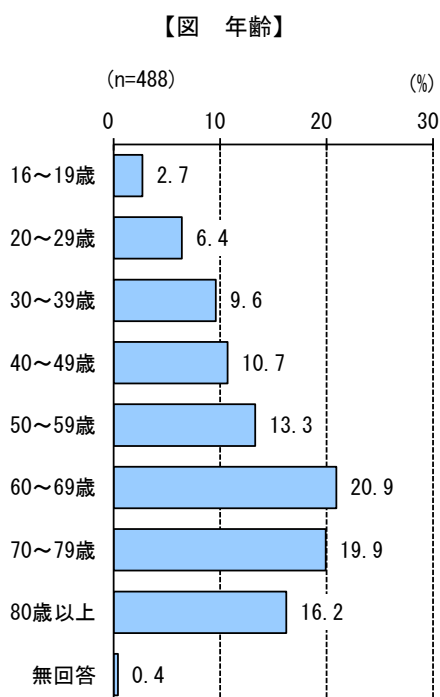
性別は、「男性」が43.2%で、「女性」が55.5%となっている。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

年齢は、「60～69 歳」が20.9%と最も多く、次いで「70～79 歳」が19.9%、「80 歳以上」が16.2%となっている。

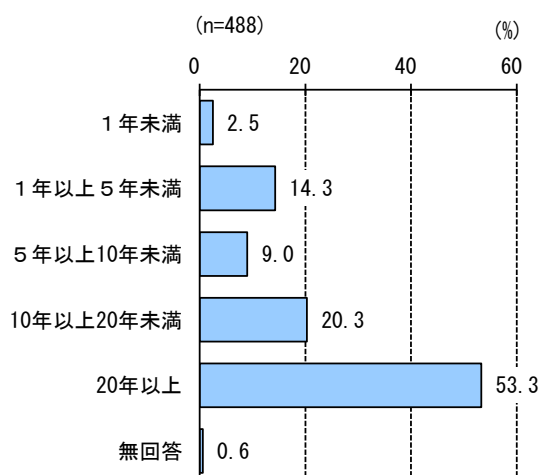


(3) 居住年数

問3 あなたの居住年数をお答えください。(1つに○)

居住年数は、「20年以上」が53.3%と最も多く、次いで、「10年以上20年未満」が20.3%、「1年以上5年未満」が14.3%、「5年以上10年未満」が9.0%、「1年未満」が2.5%となっている。

【図 居住年数】

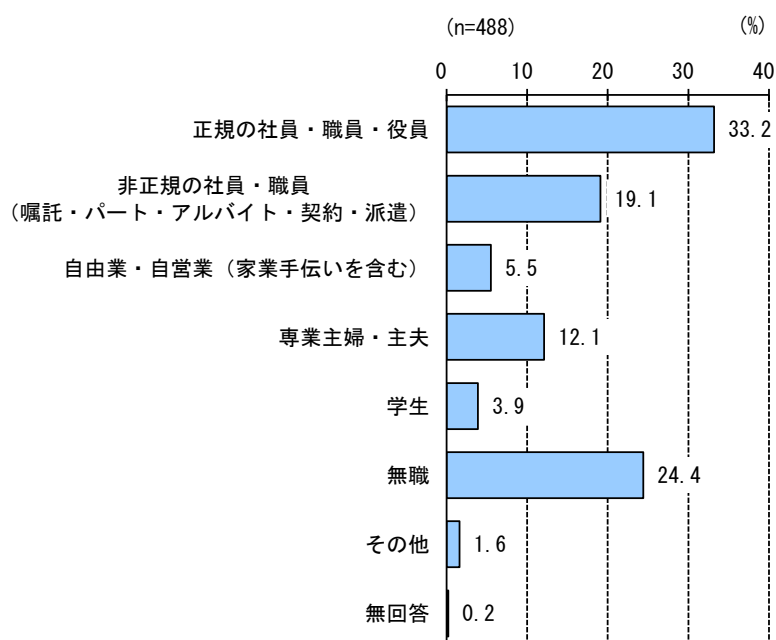


(4) 職業

問4 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

職業は、「正規の社員・職員・役員」が33.2%と最も多く、次いで、「無職」が24.4%、「非正規の社員・職員（嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣）」が19.1%、「専業主婦・主夫」が12.1%、「自由業・自営業（家業手伝いを含む）」が5.5%となっている。

【図 職業】

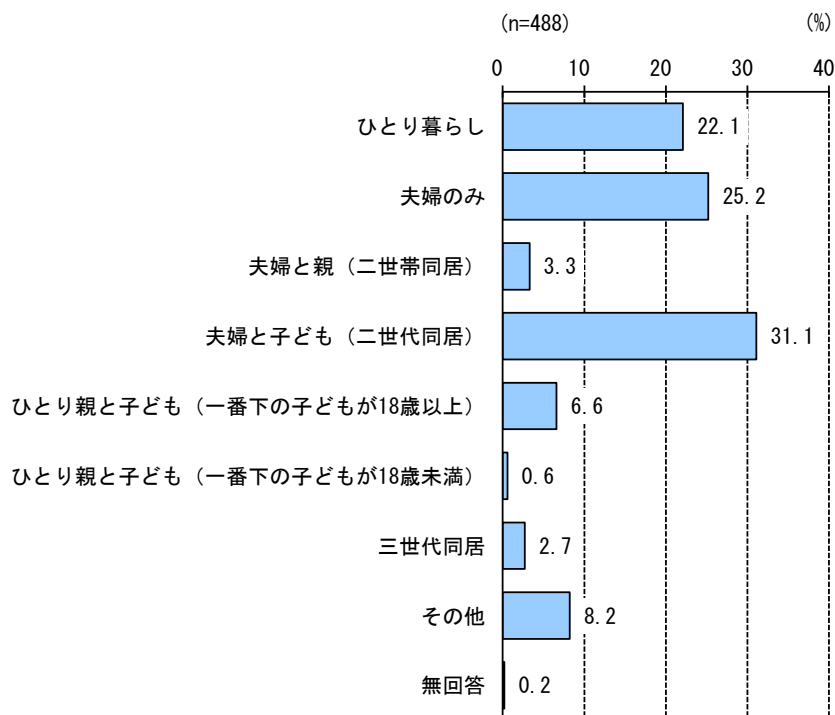


(5) 世帯構成

問5 現在、あなたが同居している世帯の構成は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

世帯構成は、「夫婦と子ども(二世帯同居)」が31.1%と最も多く、次いで、「夫婦のみ」が25.2%、「ひとり暮らし」が22.1%、「ひとり親と子ども(一番下の子どもが18歳以上)」が6.6%、「夫婦と親(二世帯同居)」が3.3%となっている。

【図 世帯構成】

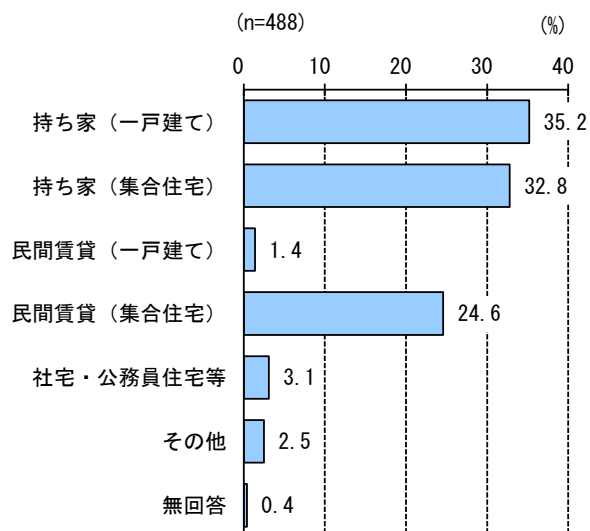


(6) 住居形態

問6 あなたのお住まいの住居形態は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

住居形態は、「持ち家(一戸建て)」が35.2%と最も多く、次いで、「持ち家(集合住宅)」が32.8%、「民間賃貸(集合住宅)」が24.6%、「社宅・公務員住宅等」が3.1%、「民間賃貸(一戸建て)」が1.4%となっている。

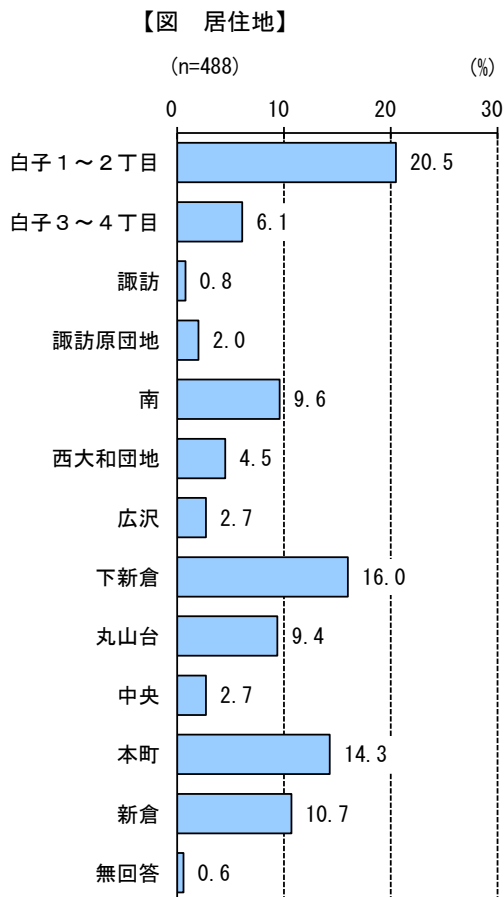
【図 住居形態】



(7) 居住地

問7 あなたのお住まいはどちらですか。(1つに○)

居住地は、「白子1～2丁目」が20.5%と最も多く、次いで、「下新倉」が16.0%、「本町」が14.3%、「新倉」が10.7%、「南」が9.6%となっている。



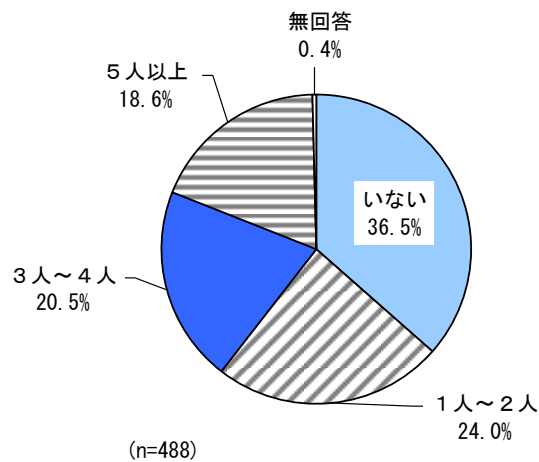
2. 近所付き合い、地域の暮らしについて

(1) 日常的に会話する近所の人数

問8 家族以外の近所の人で、日常的に会話をする人は何人いますか。(1つに○)

日常的に会話する近所の人数は、「いない」が36.5%と最も多く、次いで、「1人～2人」が24.0%、「3人～4人」が20.5%、「5人以上」が18.6%となっている。

【図 日常的に会話する近所の人数】

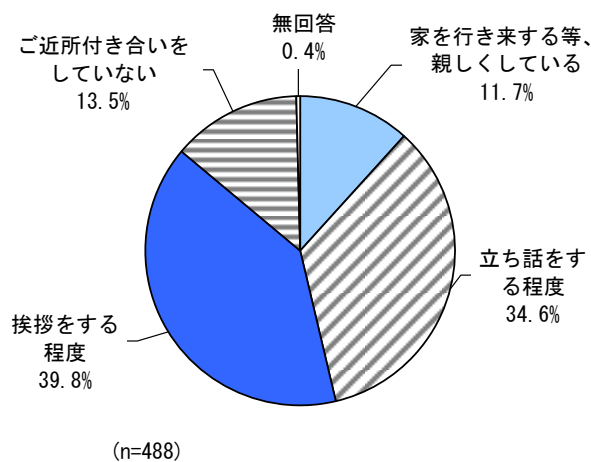


(2) 近所付き合いの程度

問9 ご近所の付き合いは、どの程度していますか。(1つに○)

近所付き合いの程度は、「挨拶をする程度」が39.8%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が34.6%、「ご近所付き合いをしていない」が13.5%、「家を行き来する等、親しくしている」が11.7%となっている。

【図 近所付き合いの程度】

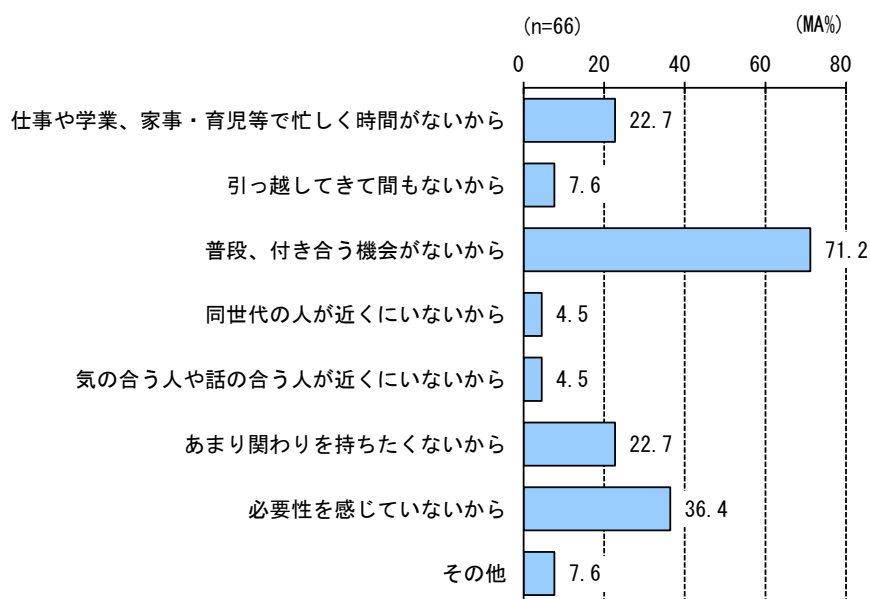


(3) 近所付き合いをしていない理由

問 9－1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。(いくつでも○)

近所付き合いをしていない理由は、「普段、付き合う機会がないから」が 71.2%と最も多く、次いで、「必要性を感じていないから」が 36.4%、「仕事や学業、家事・育児等で忙しく時間がな
いから」、「あまり関わりを持ちたくないから」がそれぞれ 22.7%、「引っ越してきて間もないか
ら」が 7.6%、「同世代の人が近くにいないから」、「気の合う人や話の合う人が近くにいないから」
がそれぞれ 4.5%となっている。

【図 近所付き合いをしていない理由】

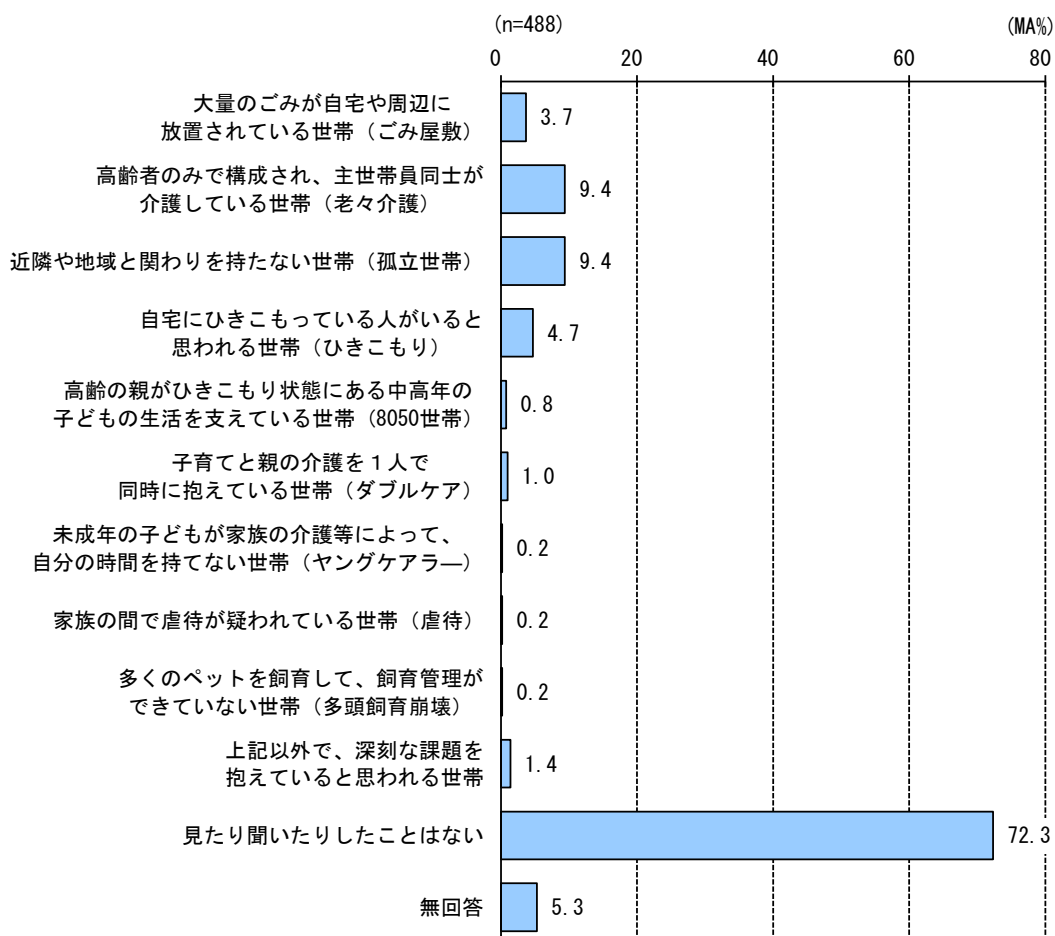


(4) 地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか

問10 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。(いくつでも○)

地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるかは、「見たり聞いたりしたことはない」が 72.3%となっている。見聞きした内容では、「高齢者のみで構成され、主世帯員同士が介護している世帯（老々介護）」、「近隣や地域と関わりを持たない世帯（孤立世帯）」がそれぞれ 9.4%で最も多く、次いで、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）」が 4.7%、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」が 3.7%となっている。

【図 地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか】

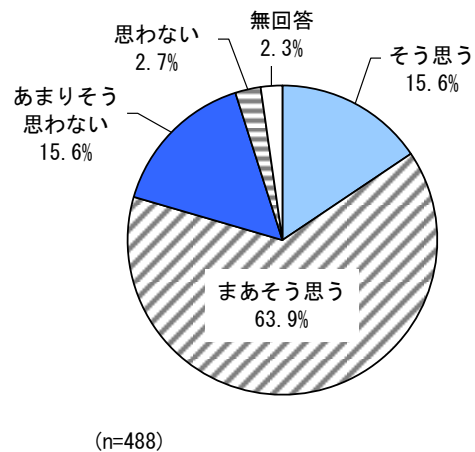


(5) 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うか

問11 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思いますか。(1つに○)

和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うかは、「まあそう思う」が63.9%と最も多く、次いで、「そう思う」、「あまりそう思わない」がそれぞれ15.6%、「思わない」が2.7%となっている。

【図 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うか】

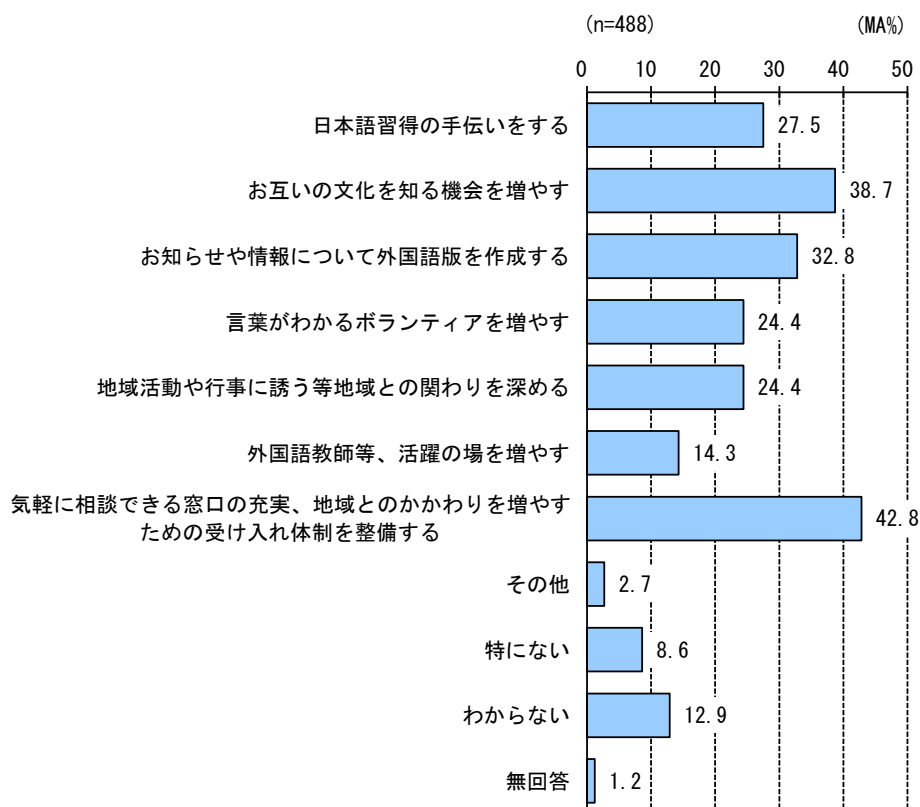


(6) 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なこと

問12 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが大切だと思いますか。
(いくつでも○)

在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なことは、「気軽に相談できる窓口の充実、地域とのかかわりを増やすための受け入れ体制を整備する」が42.8%と最も多く、次いで、「お互いの文化を知る機会を増やす」が38.7%、「お知らせや情報について外国語版を作成する」が32.8%、「日本語習得の手伝いをする」が27.5%、「言葉がわかるボランティアを増やす」、「地域活動や行事に誘う等地域との関わりを深める」がそれぞれ24.4%となっている。

【図 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なこと】



3. 市民同士の支え合い、地域活動について

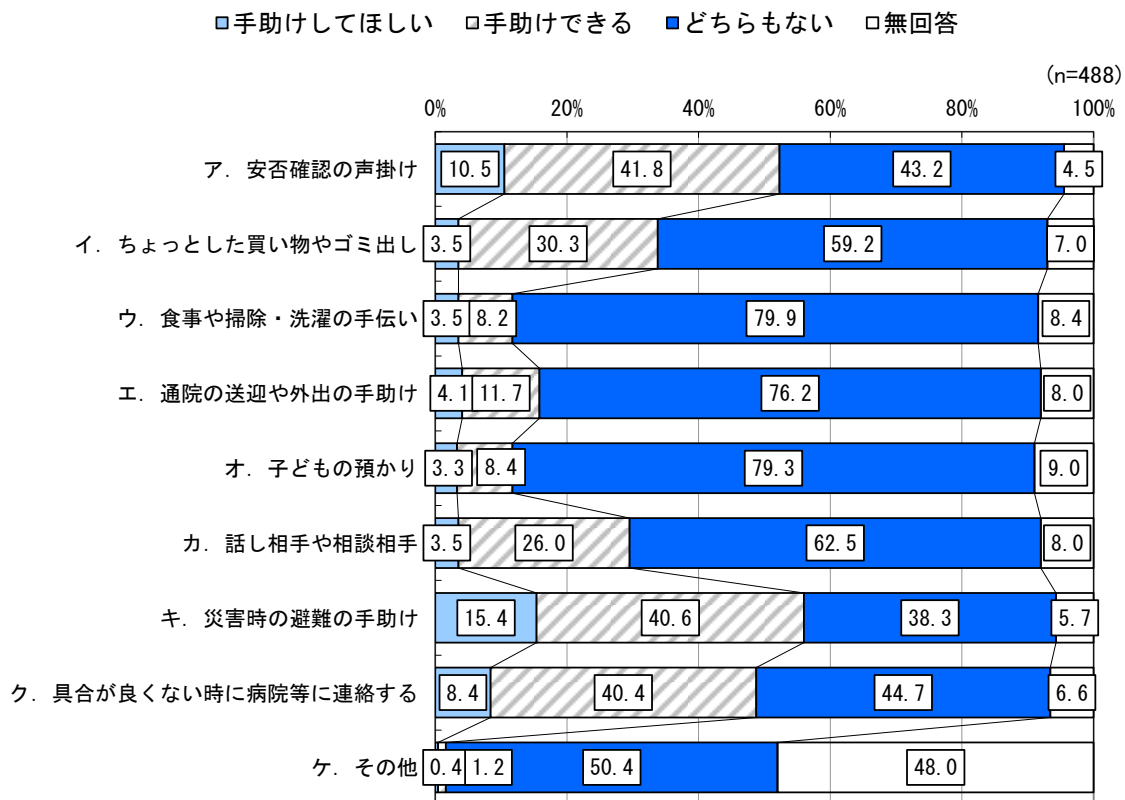
(1) 周りの人から手助けをしてほしいと思うか、周りの人に手助けできるか

問13 あなたは次の事柄について、家族以外の周りの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、周りの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○をつけてください。

周りの人から手助けをしてほしいと思うかは、「キ. 災害時の避難の手助け」が 15.4%と最も多く、次いで、「ア. 安否確認の声掛け」が 10.5%、「ク. 具合が悪くない時に病院等に連絡する」が 8.4%となっている。

周りの人に手助けできるかは、「ア. 安否確認の声掛け」が 41.8%と最も多く、次いで、「キ. 災害時の避難の手助け」が 40.6%、「ク. 具合が悪くない時に病院等に連絡する」が 40.4%となっている。

【図 周りの人から手助けをしてほしいと思うか、周りの人に手助けできるか】

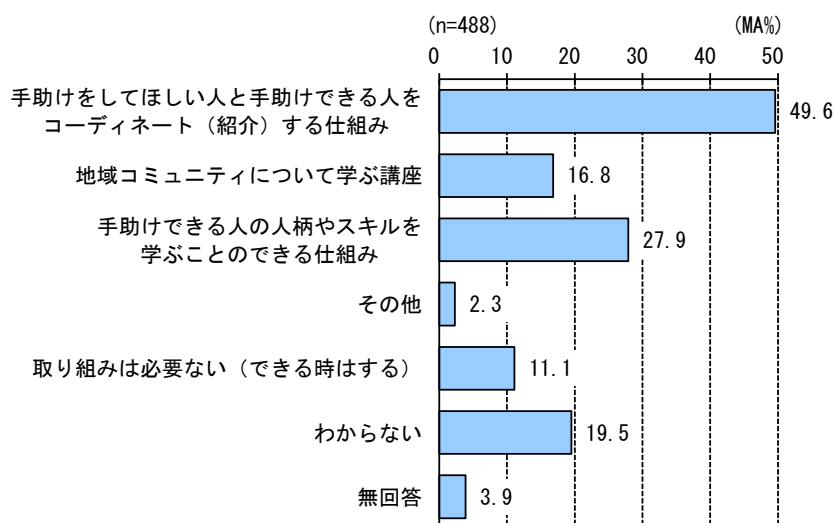


(2) 手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うか

問14 家族以外の周りの人に問13ア～ケのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思いますか。（いくつでも○）

手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うかは、「手助けをしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が 49.6%と最も多く、次いで、「手助けできる人の人柄やスキルを学ぶことのできる仕組み」が 27.9%、「地域コミュニティについて学ぶ講座」が 16.8%となっている。

【図 手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うか】

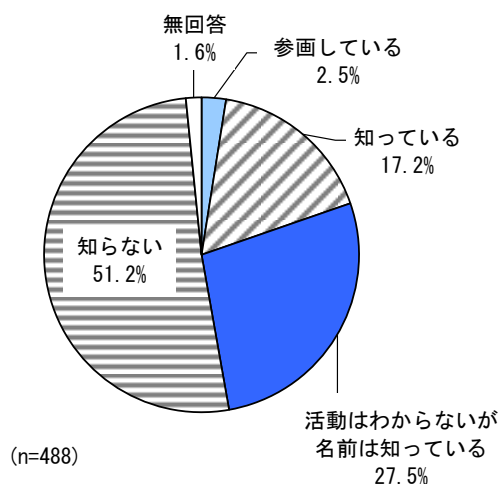


(3) 地区社協の認知状況

問15 あなたは地区社協を知っていますか。（1つに○）

地区社協の認知状況は、「知らない」が 51.2%と最も多く、次いで、「活動はわからないが名前は知っている」が 27.5%、「知っている」が 17.2%、「参画している」が 2.5%となっている。

【図 地区社協の認知状況】



(4) 地域活動やボランティア活動の取り組み状況、今後取り組みたい活動

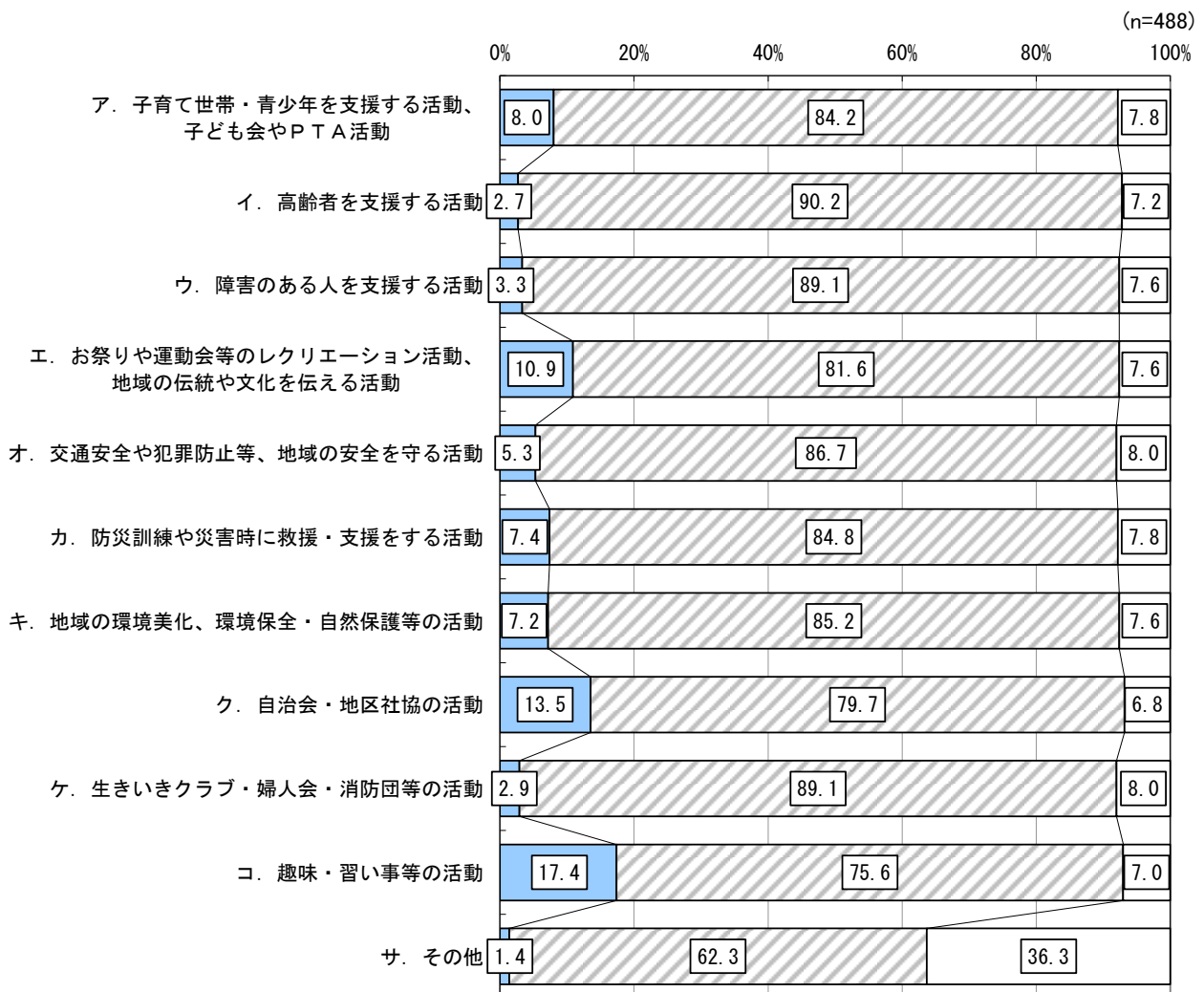
問16 市内では様々な地域活動やボランティア活動が行われていますが、
① あなたは次のような活動に取り組んでいますか。②今後、次のような活動に取り組みたい
ですか。(それぞれ1つに○)

地域活動やボランティア活動の取り組み状況は、「取り組んでいる」で、「コ. 趣味・習い事等の活動」が17.4%と最も多く、次いで、「ク. 自治会・地区社協の活動」が13.5%、「エ. お祭りや運動会等のレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」が10.9%となっている。

今後取り組みたい活動は、「取り組みたい・興味がある」で、「コ. 趣味・習い事等の活動」が30.1%と最も多く、次いで、「カ. 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動」が23.4%、「キ. 地域の環境美化、環境保全・自然保護等の活動」が20.1%となっている。

【図 地域活動やボランティア活動の取り組み状況】

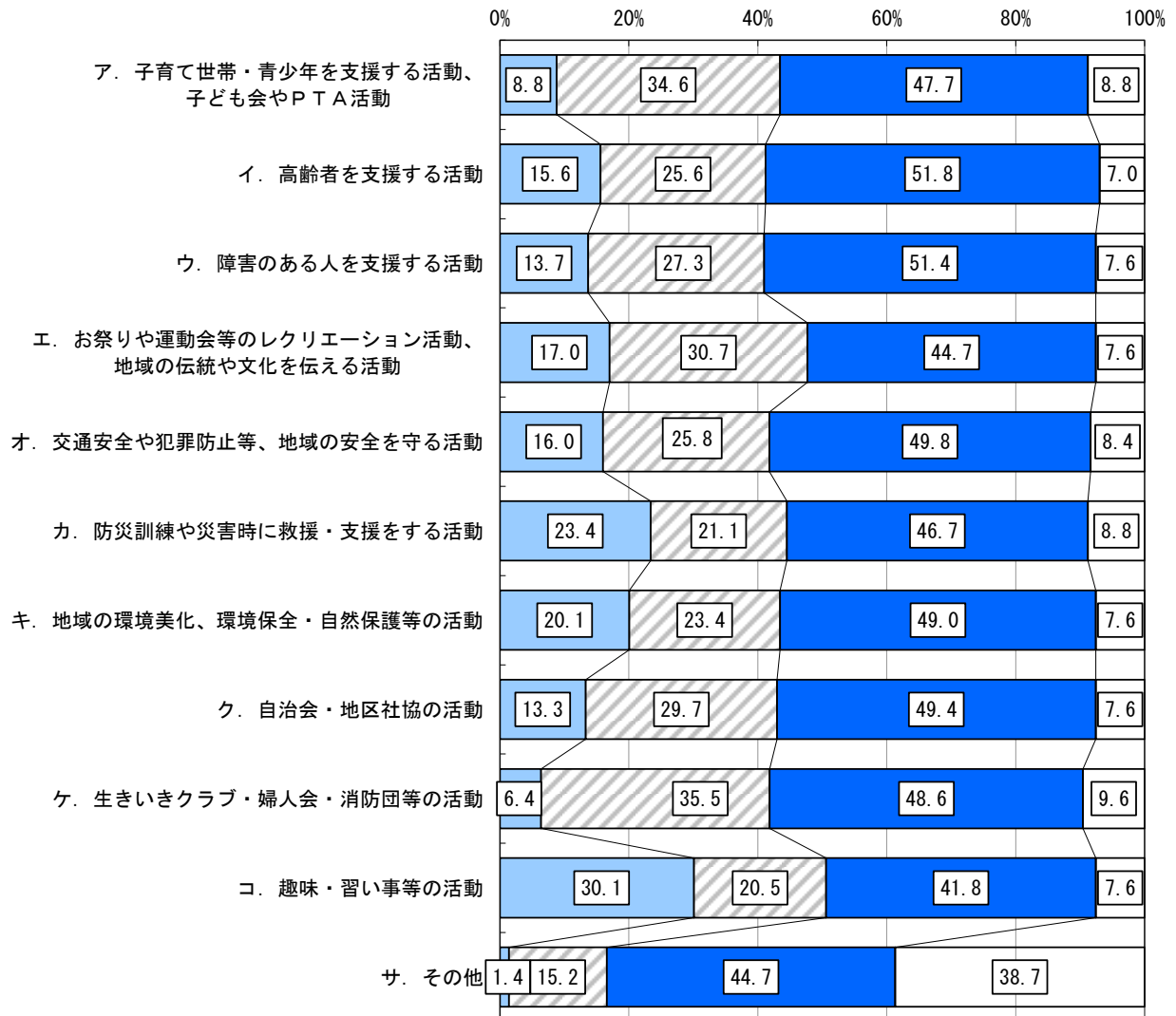
■取り組んでいる □取り組んでいない □無回答



【図 今後取り組みたい地域活動やボランティア活動】

■取り組みたい・興味がある □取り組みまない・興味がない ■わからない □無回答

(n=488)

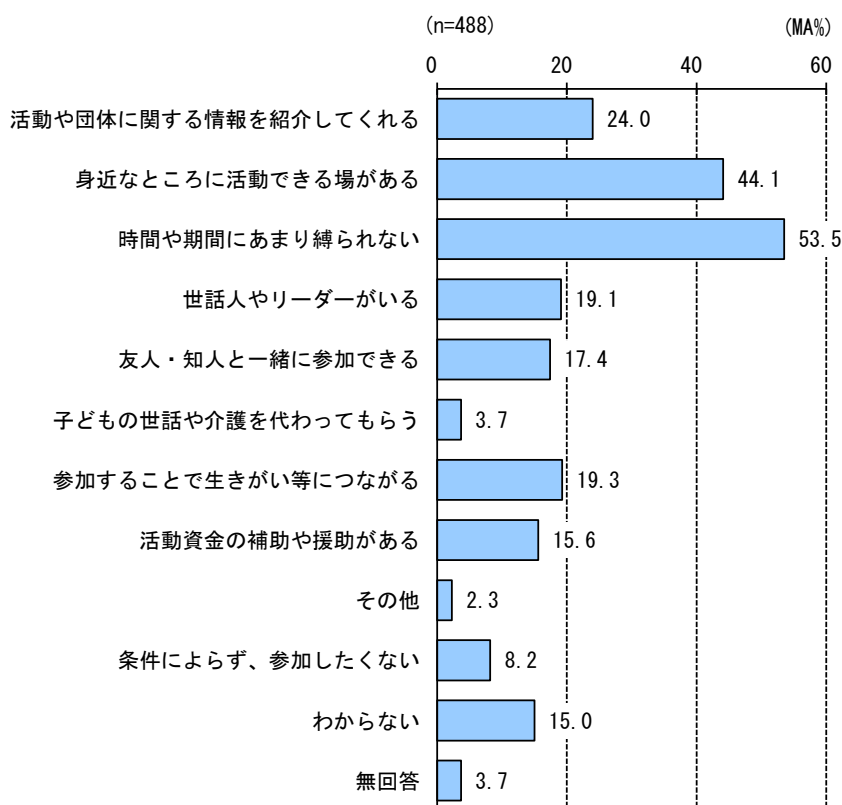


（５）地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件

問17 どのような条件であれば、地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすいですか。
(いくつでも○)

地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまり縛られない」が53.5%と最も多く、次いで、「身近なところに活動できる場がある」が44.1%、「活動や団体に関する情報を紹介してくれる」が24.0%、「参加することで生きがい等につながる」が19.3%、「世話人やリーダーがいる」が19.1%となっている。

【図 地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件】



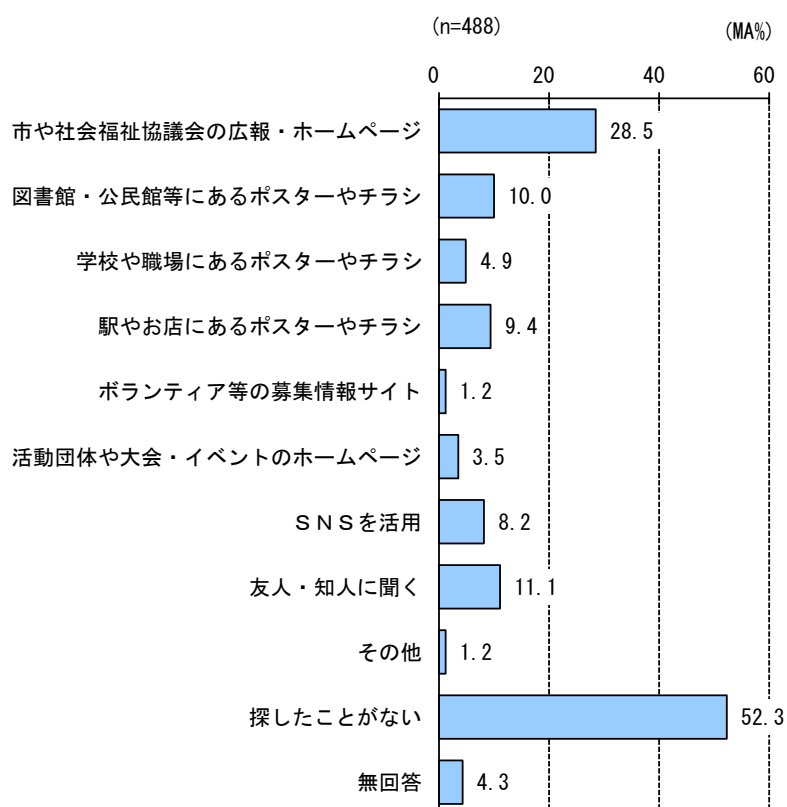
(6) 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているか

問18 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探していますか。(いくつでも○)

地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているかは、「市や社会福祉協議会の広報・ホームページ」が28.5%と最も多く、次いで、「友人・知人に聞く」が11.1%、「図書館・公民館等にあるポスターやチラシ」が10.0%、「駅やお店にあるポスターやチラシ」が9.4%、「SNSを活用」が8.2%となっている。

一方、「探したことがない」が52.3%となっている。

【図 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているか】



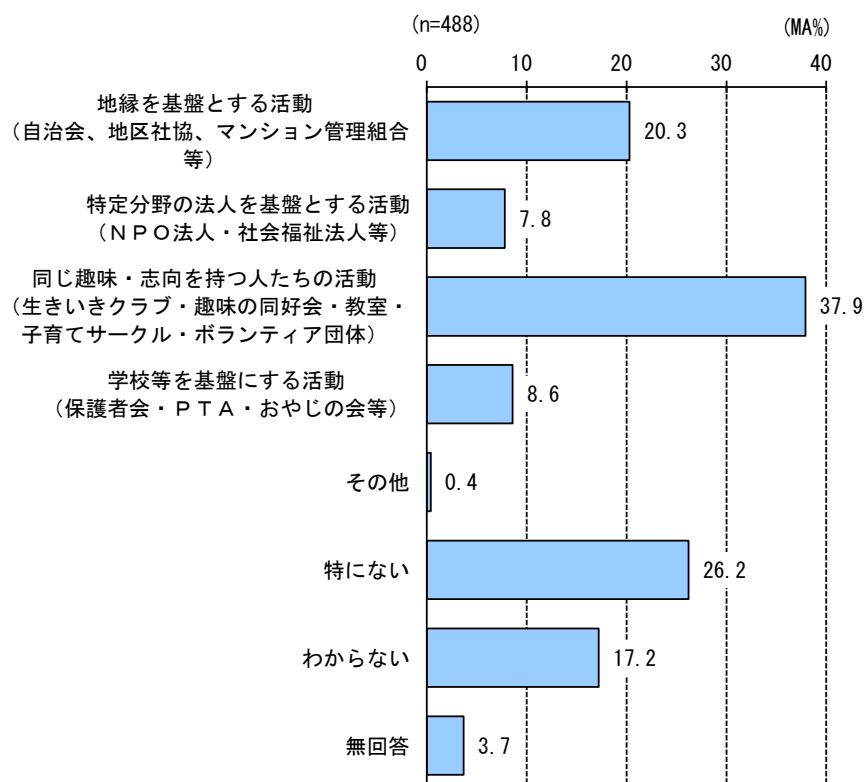
(7) 参加しやすいと思う活動

問19 近年、様々な主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすいと思う活動は何ですか。(いくつでも○)

参加しやすいと思う活動は、「同じ趣味・志向を持つ人たちの活動（生きいきクラブ・趣味の同好会・教室・子育てサークル・ボランティア団体）」が 37.9%と最も多く、次いで、「地縁を基盤とする活動（自治会、地区社協、マンション管理組合等）」が 20.3%、「学校等を基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会等）」が 8.6%、「特定分野の法人を基盤とする活動（NPO法人・社会福祉法人等）」が 7.8%となっている。

一方、「特にない」が 26.2%となっている。

【図 参加しやすいと思う活動】

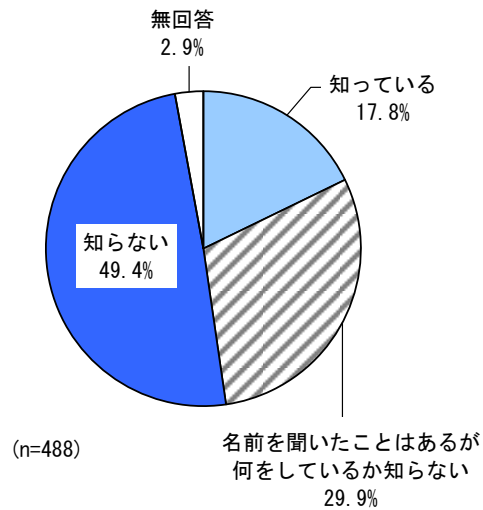


（８）和光市社会福祉協議会の認知状況

問20 あなたは和光市社会福祉協議会（ボランティアセンター、地域福祉コーディネーターなど）を知っていますか。（１つに○）

和光市社会福祉協議会の認知状況は、「知らない」が 49.4%と最も多く、次いで、「名前を聞いたことはあるが何をしているか知らない」が 29.9%、「知っている」が 17.8%となっている。

【図 和光市社会福祉協議会の認知状況】



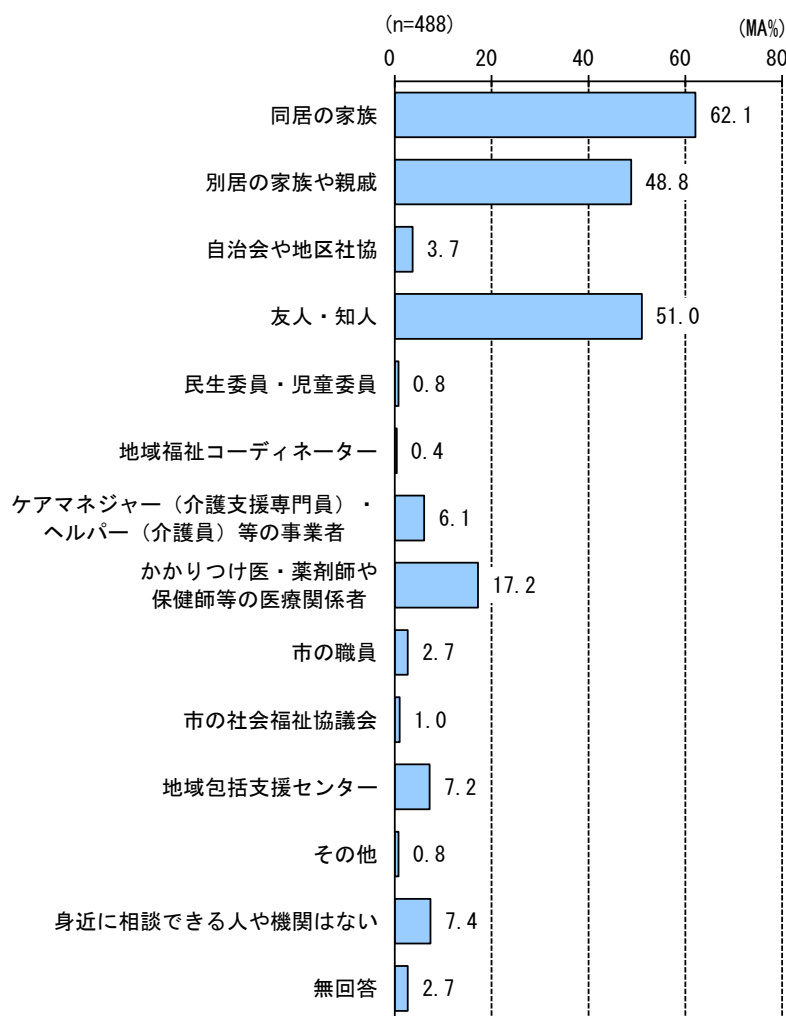
4. 暮らしのことについて

(1) 日常生活での困りごとを相談できる人や機関

問21 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

日常生活での困りごとを相談できる人や機関は、「同居の家族」が 62.1%と最も多く、次いで、「友人・知人」が 51.0%、「別居の家族や親戚」が 48.8%、「かかりつけ医・薬剤師や保健師等の医療関係者」が 17.2%、「地域包括支援センター」が 7.2%となっている。

【図 日常生活での困りごとを相談できる人や機関】

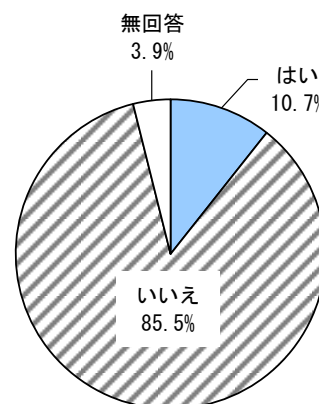


(2) どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているか

問22 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかは、「はい」が10.7%、「いいえ」が85.5%となっている。

【図 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているか】



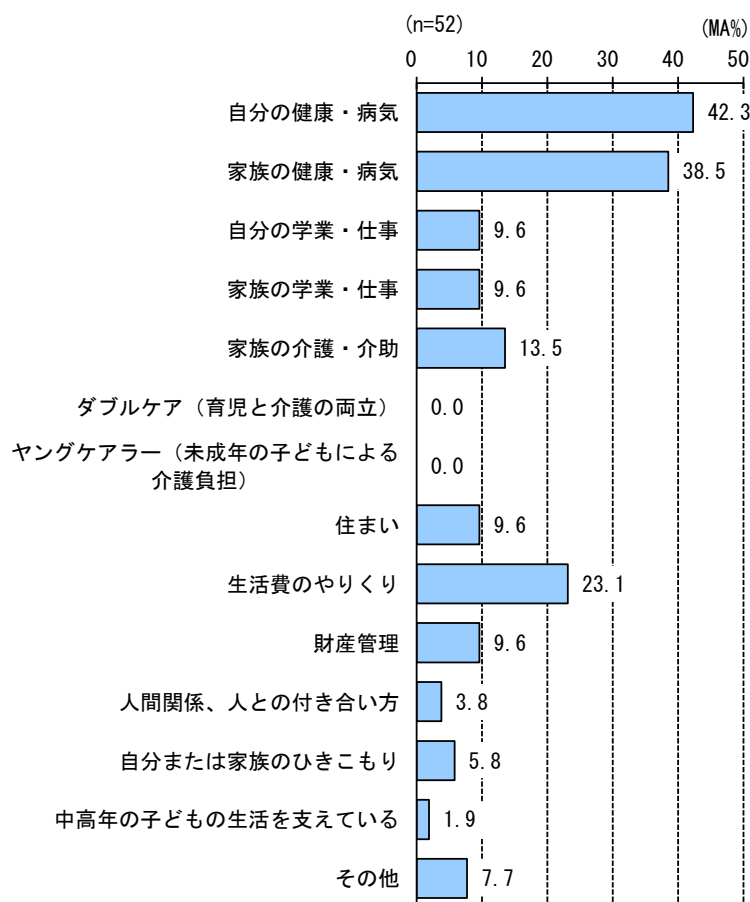
(n=488)

(3) 困りごとの内容

問22-1 差し支えなければ、お困りごとの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

困りごとの内容は、「自分の健康・病気」が42.3%と最も多く、次いで、「家族の健康・病気」が38.5%、「生活費のやりくり」が23.1%、「家族の介護・介助」が13.5%、「自分の学業・仕事」、「家族の学業・仕事」、「住まい」、「財産管理」がそれぞれ9.6%となっている。

【図 困りごとの内容】

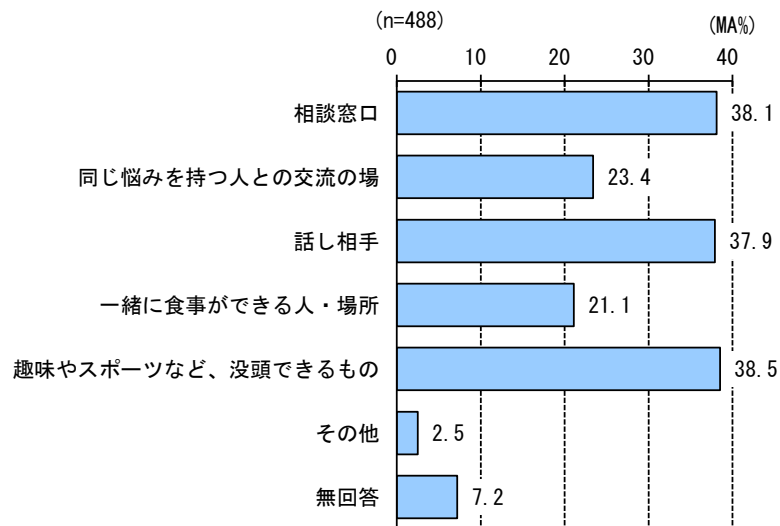


(4) 孤独・孤立を感じた時にあれば良いこと

問23 あなたが孤独・孤立を感じた時、どのようなことがあれば良いですか。(いくつでも○)

孤独・孤立を感じた時にあれば良いことは、「趣味やスポーツなど、没頭できるもの」が 38.5%と最も多く、次いで、「相談窓口」が 38.1%、「話し相手」が 37.9%、「同じ悩みを持つ人との交流の場」が 23.4%、「一緒に食事ができる人・場所」が 21.1%となっている。

【図 孤独・孤立を感じた時にあれば良いこと】



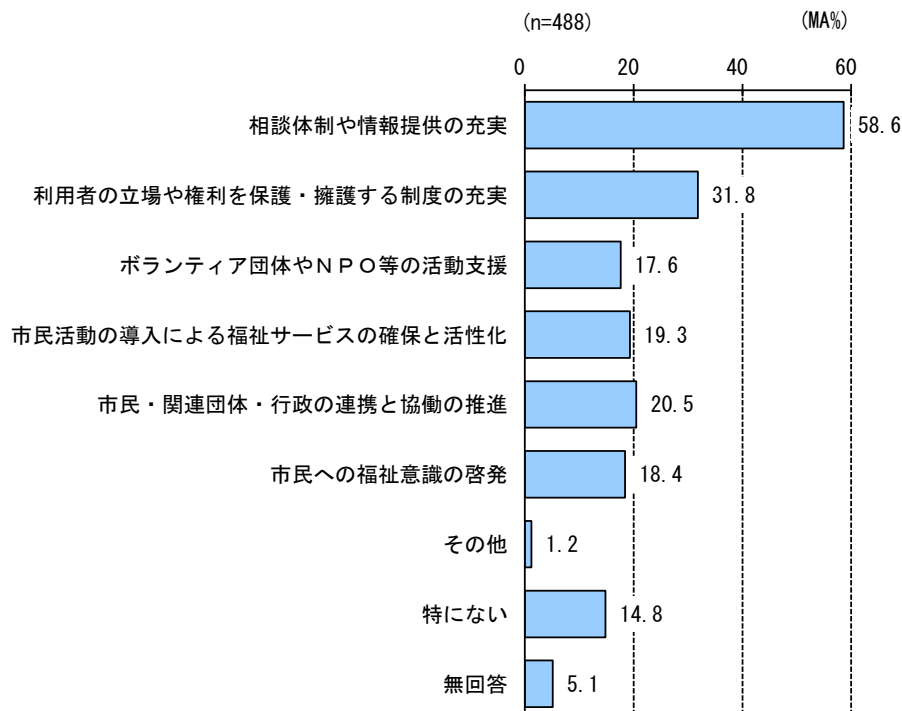
5. 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスを充実する取り組み

問24 福祉サービスを充実する取り組みは何だと思われますか。(いくつでも○)

福祉サービスを充実する取り組みは、「相談体制や情報提供の充実」が 58.6%と最も多く、次いで、「利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実」が 31.8%、「市民・関連団体・行政の連携と協働の推進」が 20.5%、「市民活動の導入による福祉サービスの確保と活性化」が 19.3%、「市民への福祉意識の啓発」が 18.4%となっている。

【図 福祉サービスを充実する取り組み】



(2) 生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うか

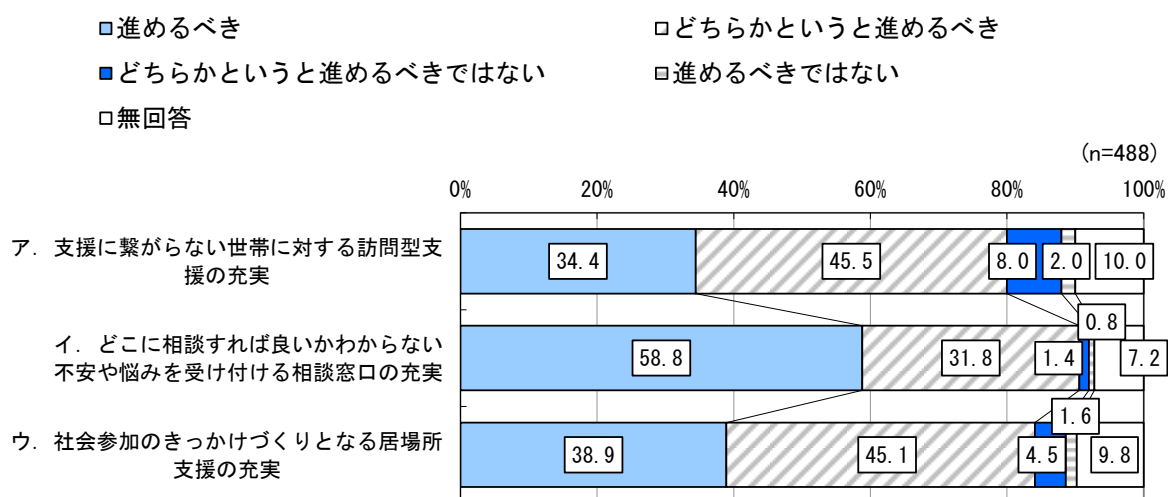
問25 どこに相談すれば良いかわからない生活上の困りごとを抱えている世帯に対し、以下の取り組みを進めるべきだと思いますか。(それぞれ1つに○)

生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うかは、ア. 支援に繋がらない世帯に対する訪問型支援の充実では、「どちらかというに進めるべき」が45.5%と最も多く、次いで、「進めるべき」が34.4%、「どちらかというに進めるべきではない」が8.0%、「進めるべきではない」が2.0%となっている。

イ. どこに相談すれば良いかわからない不安や悩みを受け付ける相談窓口の充実では、「進めるべき」が58.8%と最も多く、次いで、「どちらかというに進めるべき」が31.8%、「どちらかというに進めるべきではない」が1.4%、「進めるべきではない」が0.8%となっている。

ウ. 社会参加のきっかけづくりとなる居場所支援の充実では、「どちらかというに進めるべき」が45.1%と最も多く、次いで、「進めるべき」が38.9%、「どちらかというに進めるべきではない」が4.5%、「進めるべきではない」が1.6%となっている。

【図 生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うか】



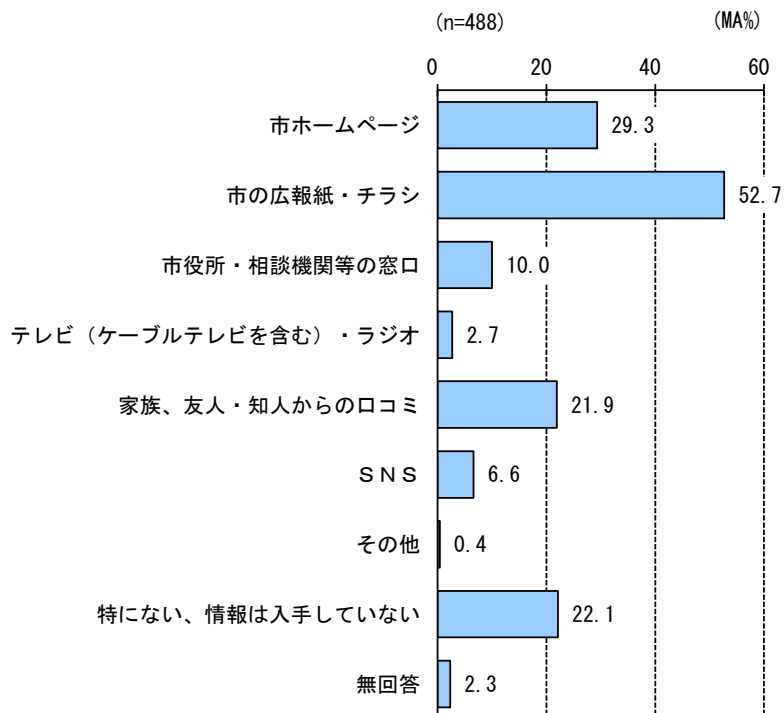
(3) 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているか

問26 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(いくつでも○)

市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているかは、「市の広報紙・チラシ」が52.7%と最も多く、次いで、「市ホームページ」が29.3%、「家族、友人・知人からの口コミ」が21.9%、「市役所・相談機関等の窓口」が10.0%、「SNS」が6.6%となっている。

一方、「特にない、情報は入手していない」が22.1%となっている。

【図 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているか】



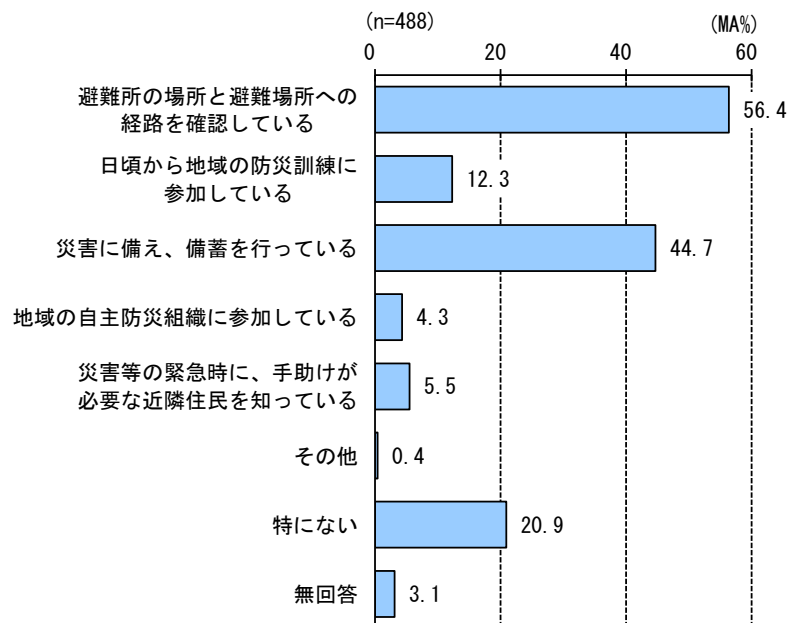
6. 災害対策について

(1) 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているか

問27 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしていますか。(いくつでも○)

災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているかは、「避難所の場所と避難場所への経路を確認している」が 56.4%と最も多く、次いで、「災害に備え、備蓄を行っている」が 44.7%、「日頃から地域の防災訓練に参加している」が 12.3%、「災害等の緊急時に、手助けが必要な近隣住民を知っている」が 5.5%、「地域の自主防災組織に参加している」が 4.3%となっている。一方、「特にない」が 20.9%となっている。

【図 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているか】

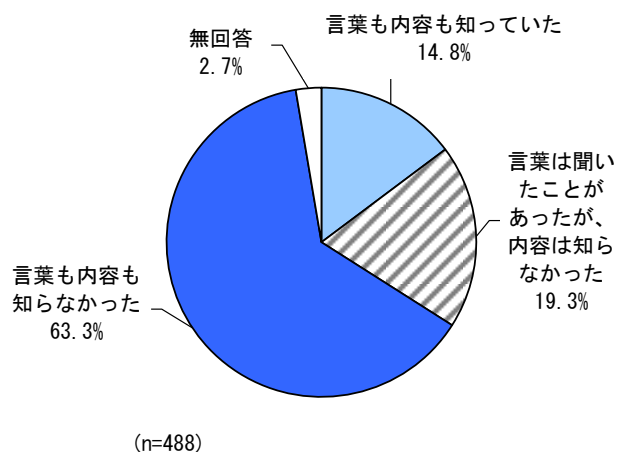


(2) 避難行動要支援者名簿の認知状況

問28 避難行動要支援者名簿について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が 63.3%と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が 19.3%、「言葉も内容も知っていた」が 14.8%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿の認知状況】

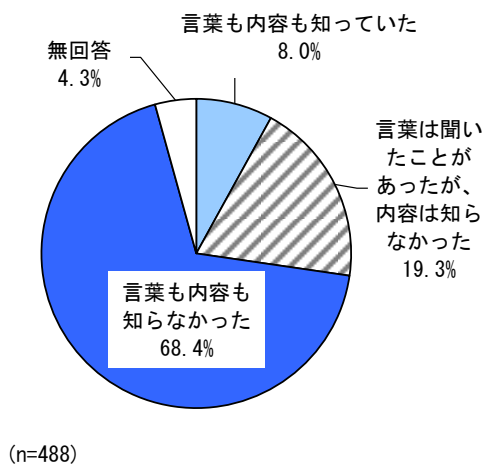


(3) 個別避難計画の認知状況

問29 個別避難計画について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

個別避難計画の認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が 68.4%と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が 19.3%、「言葉も内容も知っていた」が 8.0%となっている。

【図 個別避難計画の認知状況】



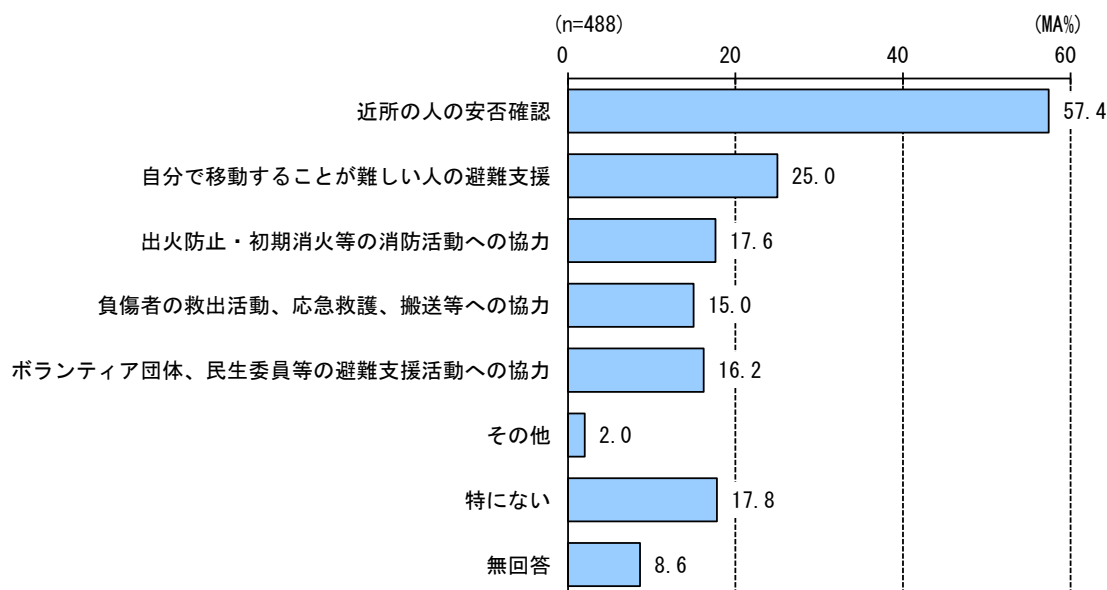
(4) 災害発生時に協力できる防火活動

問30 災害発生時にどのような地域の防火活動に協力できますか。(いくつでも○)

災害発生時に協力できる防火活動は、「近所の人の安否確認」が 57.4%と最も多く、次いで、「自分で移動することが難しい人の避難支援」が 25.0%、「出火防止・初期消火等の消防活動への協力」が 17.6%、「ボランティア団体、民生委員等の避難支援活動への協力」が 16.2%、「負傷者の救出活動、応急救護、搬送等への協力」が 15.0%となっている。

一方、「特にない」が 17.8%となっている。

【図 災害発生時に協力できる防火活動】

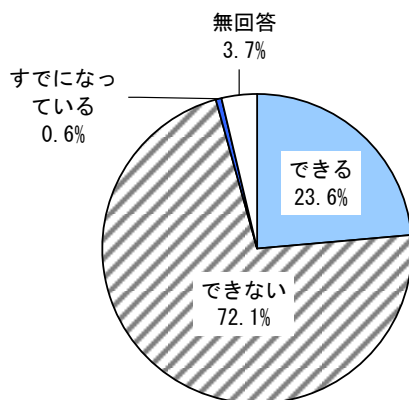


(5) 避難行動要支援者の避難支援員になることができるか

問31 近所の避難行動要支援者の避難支援員になることができますか。(1つに○)

避難行動要支援者の避難支援員になることができるかは、「できる」が 23.6%、「できない」が 72.1%、「すでになっている」が 0.6%となっている。

【図 避難行動要支援者の避難支援員になることができるか】



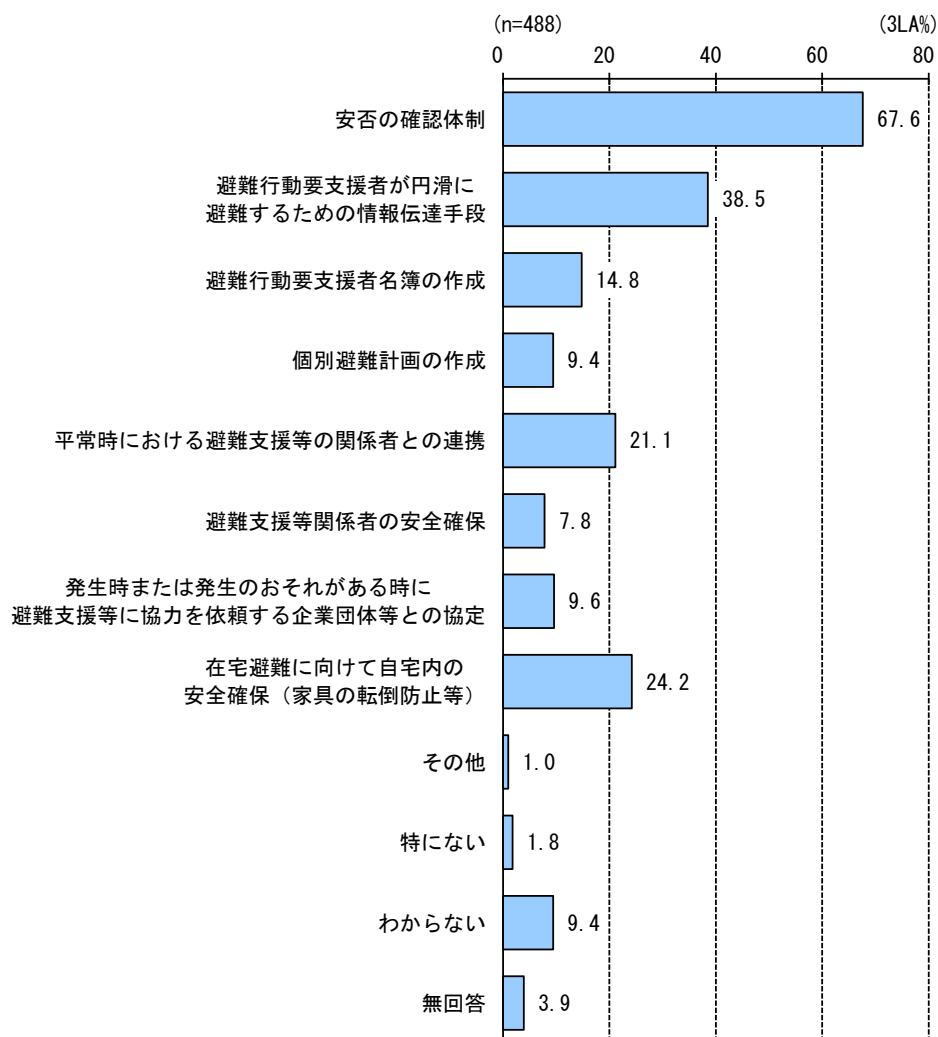
(n=488)

(6) 避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うもの

問32 災害発生時に備えた避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うものは何ですか。
(3つまで○)

避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うものは、「安否の確認体制」が 67.6%と最も多く、次いで、「避難行動要支援者が円滑に避難するための情報伝達手段」が 38.5%、「在宅避難に向けて自宅内の安全確保（家具の転倒防止等）」が 24.2%、「平常時における避難支援等の関係者との連携」が 21.1%、「避難行動要支援者名簿の作成」が 14.8%となっている。

【図 避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うもの】



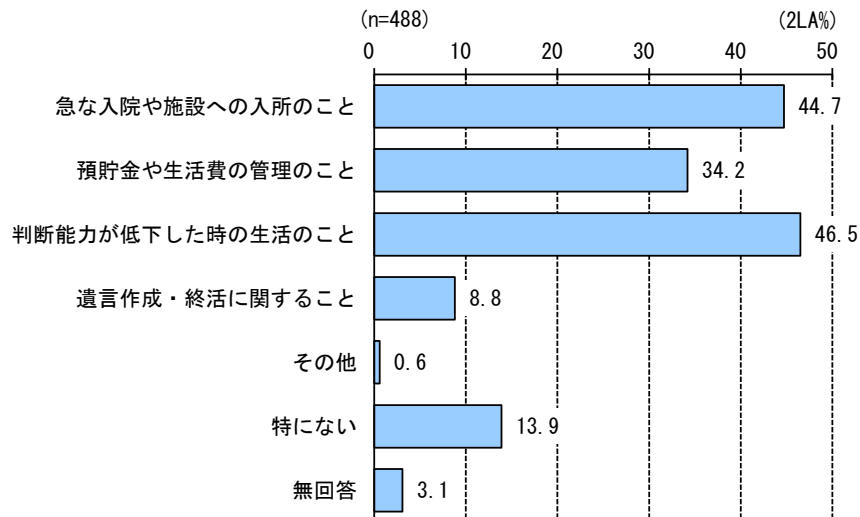
7. 権利擁護支援について

(1) 将来の備えとして不安を感じる事

問33 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(2つまで○)

将来の備えとして不安を感じることは、「判断能力が低下した時の生活のこと」が 46.5%と最も多く、次いで、「急な入院や施設への入所のこと」が 44.7%、「預貯金や生活費の管理のこと」が 34.2%、「遺言作成・終活に関すること」が 8.8%となっている。

【図 将来の備えとして不安を感じる事】

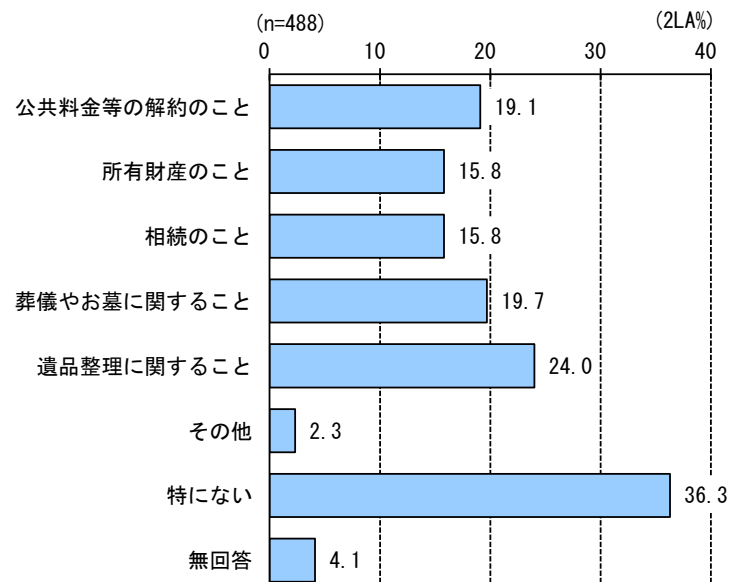


(2) 自身が亡くなった後のことで不安なこと

問34 あなたは自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。(2つまで○)

自身が亡くなった後のことで不安なことは、「遺品整理に関すること」が 24.0%と最も多く、次いで、「葬儀やお墓に関すること」が 19.7%、「公共料金等の解約のこと」が 19.1%、「所有財産のこと」、「相続のこと」がそれぞれ 15.8%となっている。

【図 自身が亡くなった後のことで不安なこと】



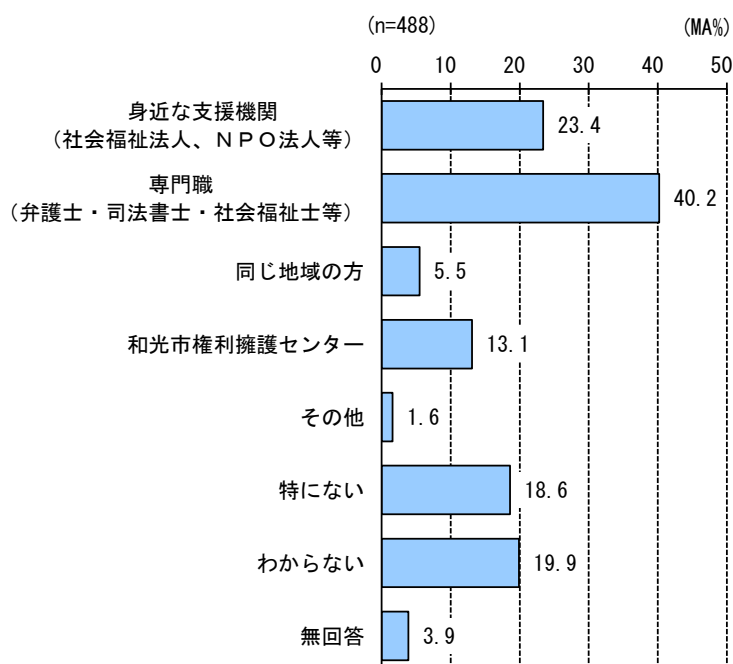
(3) 将来の備え、亡くなった後のことを家族以外で誰に相談したいか

問35 問33、問34について、必要になった時、家族以外で誰に相談したいですか。(いくつでも○)

将来の備え、亡くなった後のことを家族以外で誰に相談したいかは、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が 40.2%と最も多く、次いで、「身近な支援機関（社会福祉法人、NPO 法人等）」が 23.4%、「和光市権利擁護センター」が 13.1%、「同じ地域の方」が 5.5%となっている。

一方、「特にない」が 18.6%、「わからない」が 19.9%となっている。

【図 将来の備え、亡くなった後のことを家族以外で誰に相談したいか】

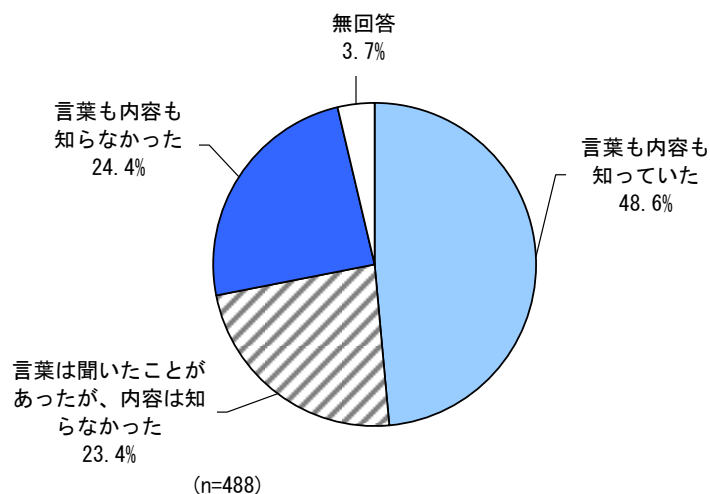


(4) 成年後見制度の認知状況

問36 成年後見制度について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

成年後見制度の認知状況は、「言葉も内容も知っていた」が48.6%と最も多く、次いで、「言葉も内容も知らなかった」が24.4%、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が23.4%となっている。

【図 成年後見制度の認知状況】

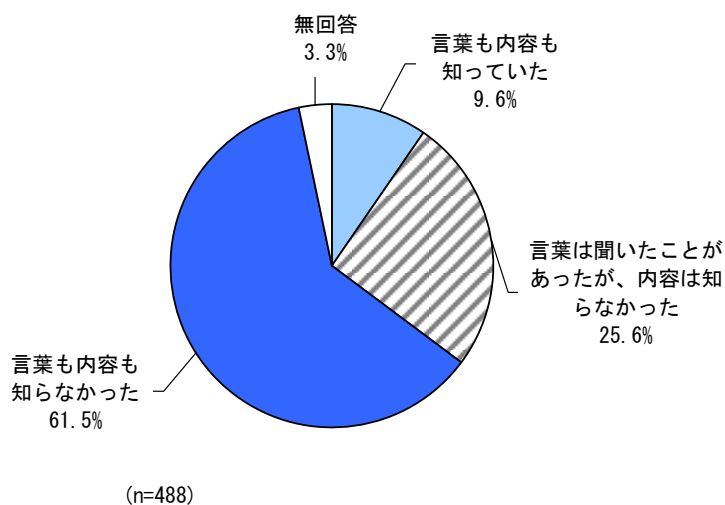


(5) あんしんサポートねっとの認知状況

問37 判断能力の不十分な方などが、地域で安心して生活が送れるように支援をするあんしんサポートねっとについて、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

あんしんサポートねっとの認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が61.5%と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が25.6%、「言葉も内容も知っていた」が9.6%となっている。

【図 あんしんサポートねっとの認知状況】

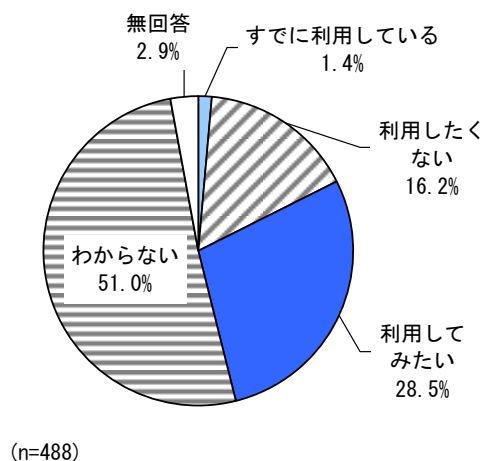


（６）成年後見制度の利用希望

問38 あなたや家族が認知症等により判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（１つに○）

成年後見制度の利用希望は、「わからない」が51.0%と最も多く、「利用してみたい」が28.5%、「利用したくない」が16.2%、「すでに利用している」が1.4%となっている。

【図 成年後見制度の利用希望】

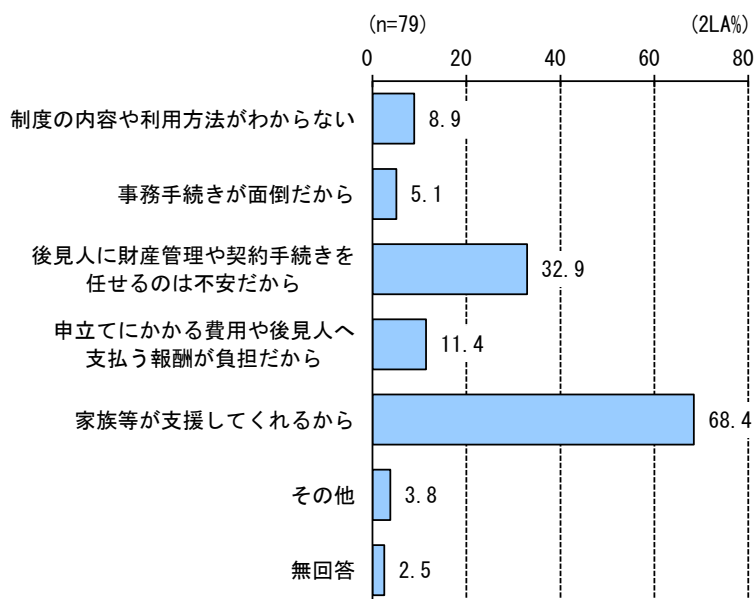


（７）成年後見制度を利用したくない理由

問38－１ 利用したくない理由は何ですか。（２つまで○）

成年後見制度を利用したくない理由は、「家族等が支援してくれるから」が68.4%と最も多く、次いで、「後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」が32.9%、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」が11.4%、「制度の内容や利用方法がわからない」が8.9%、「事務手続きが面倒だから」が5.1%となっている。

【図 成年後見制度を利用したくない理由】



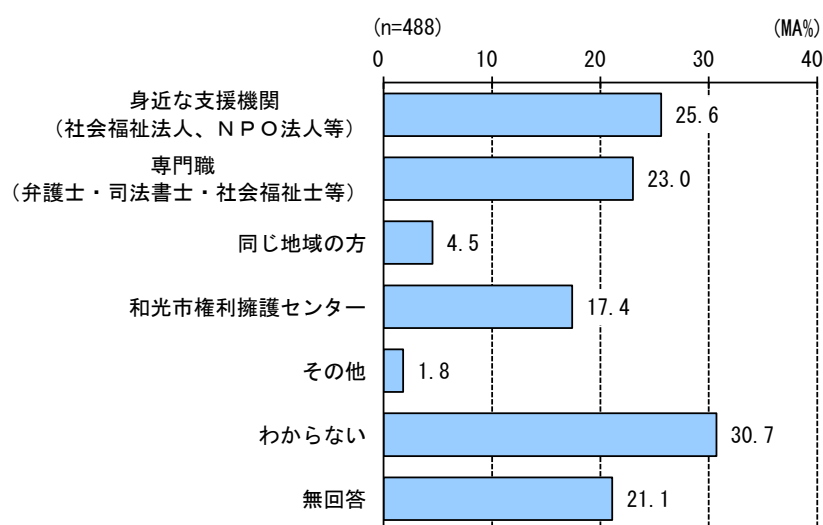
（８）身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいか

問39 あなた自身の判断能力が低下して、身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいですか。（いくつでも○）

身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいかは、「身近な支援機関（社会福祉法人、NPO法人等）」が 25.6%と最も多く、次いで、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が 23.0%、「和光市権利擁護センター」が 17.4%、「同じ地域の方」が 4.5%となっている。

一方、「わからない」が 30.7%となっている。

【図 身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいか】

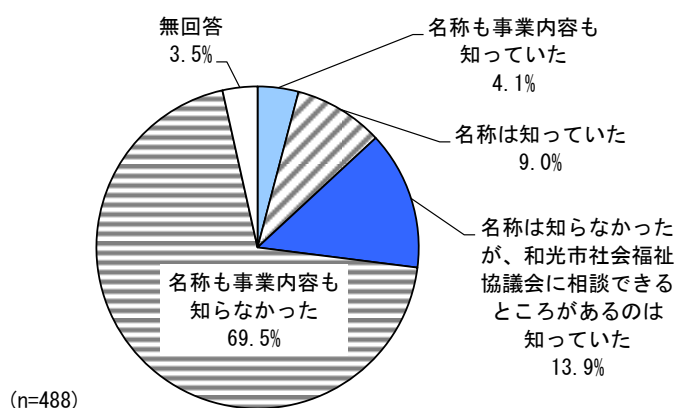


（９）和光市権利擁護センターの認知状況

問40 和光市権利擁護センターについて、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。（１つに○）

和光市権利擁護センターの認知状況は、「名称も事業内容も知らなかった」が 69.5%と最も多く、次いで、「名称は知らなかったが、和光市社会福祉協議会に相談できるところがあるのは知っていた」が 13.9%、「名称は知っていた」が 9.0%、「名称も事業内容も知っていた」が 4.1%となっている。

【図 和光市権利擁護センターの認知状況】



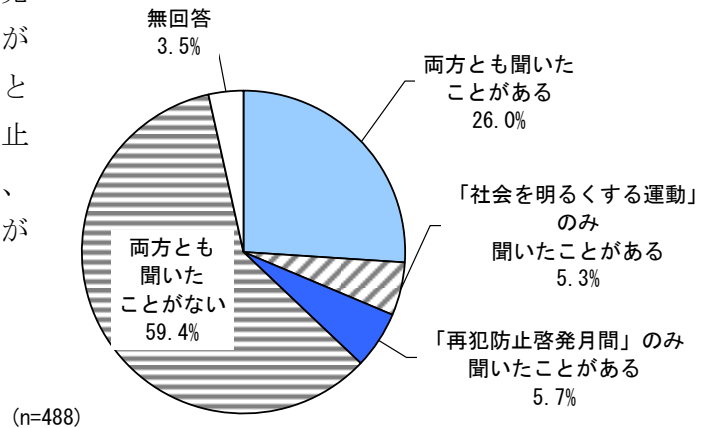
8. 更生を支援するまちづくりについて（再犯防止について）

（１）「社会を明るくする運動」、「再犯防止啓発月間」の認知状況

問41 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、力を合わせて、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。（１つに○）

【図 「社会を明るくする運動」、「再犯防止啓発月間」の認知状況】

「社会を明るくする運動」、「再犯防止啓発月間」の認知状況は、「両方とも聞いたことがない」が 59.4%と最も多く、次いで、「両方とも聞いたことがある」が 26.0%、「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」が 5.7%、「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」が 5.3%となっている。

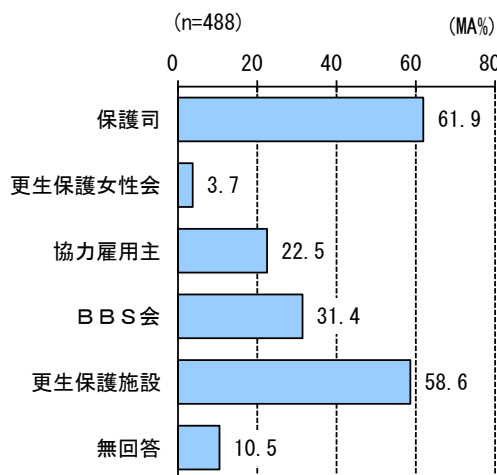


（２）犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況

問42 あなたは、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。（いくつでも○）

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況は、「保護司」が 61.9%と最も多く、次いで、「更生保護施設」が 58.6%、「ＢＢＳ会」が 31.4%、「協力雇用主」が 22.5%、「更生保護女性会」が 3.7%となっている。

【図 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況】

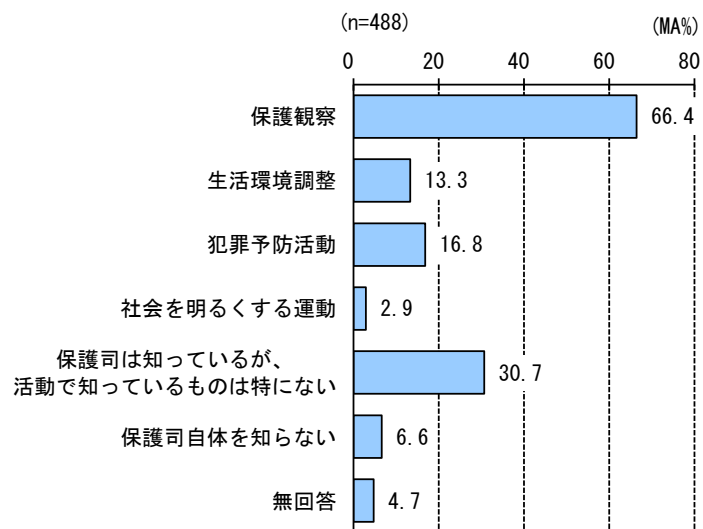


(3) 保護司の活動の認知状況

問43 保護司の活動のうち、知っているものはありますか。(いくつでも○)

保護司の活動の認知状況は、「保護観察」が66.4%と最も多く、次いで、「保護司は知っているが、活動で知っているものは特にない」が30.7%、「犯罪予防活動」が16.8%、「生活環境調整」が13.3%、「保護司自体を知らない」が6.6%となっている。

【図 保護司の活動の認知状況】



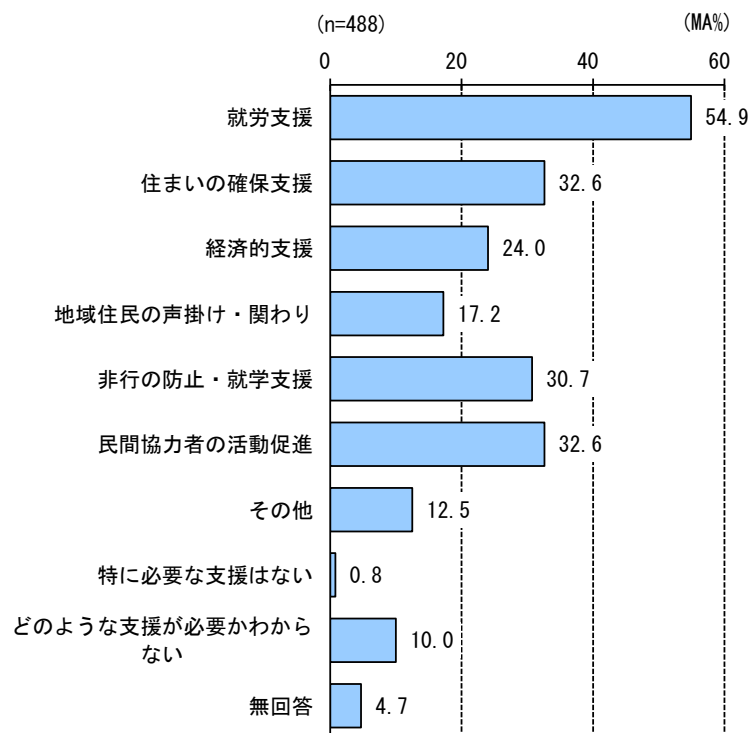
(4) 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援

問44 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要な支援は何だと思いますか。(いくつでも○)

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援は、「就労支援」が 54.9%と最も多く、次いで、「住まいの確保支援」、「民間協力者の活動促進」がそれぞれ 32.6%、「非行の防止・就学支援」が 30.7%、「経済的支援」が 24.0%、「地域住民の声掛け・関わり」が 17.2%となっている。

一方、「どのような支援が必要かわからない」が 10.0%となっている。

【図 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援】



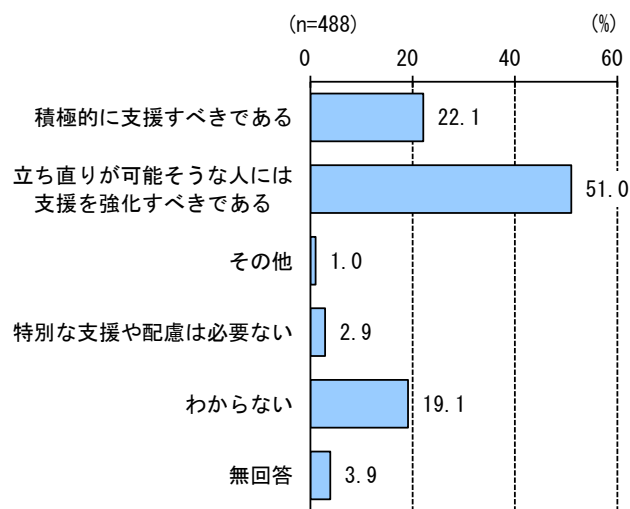
(5) 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考え

問45 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについて、あなたの考えに近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考えは、「立ち直りが可能そうな人には支援を強化すべきである」が 51.0%と最も多く、次いで、「積極的に支援すべきである」が 22.1%となっている。

一方、「わからない」が 19.1%となっている。

【図 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考え】



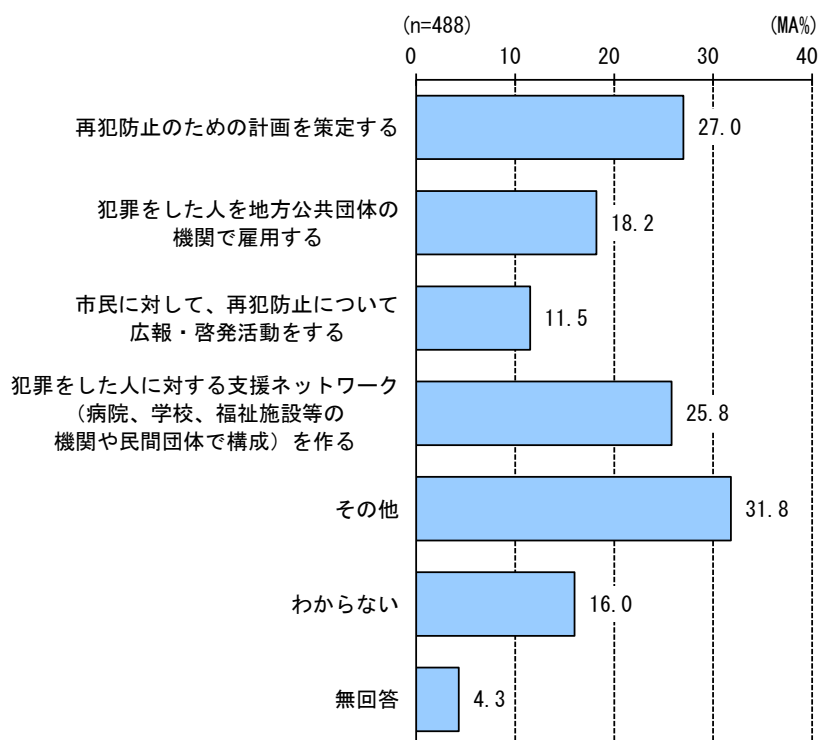
（６）再犯防止のために行政が取り組むべきもの

問46 再犯防止のために行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。（いくつでも○）

再犯防止のために行政が取り組むべきものは、「再犯防止のための計画を策定する」が 27.0%と最も多く、次いで、「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設等の機関や民間団体で構成）を作る」が 25.8%、「犯罪をした人を地方公共団体の機関で雇用する」が 18.2%、「市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする」が 11.5%となっている。

一方、「わからない」が 16.0%となっている。

【図 再犯防止のために行政が取り組むべきもの】



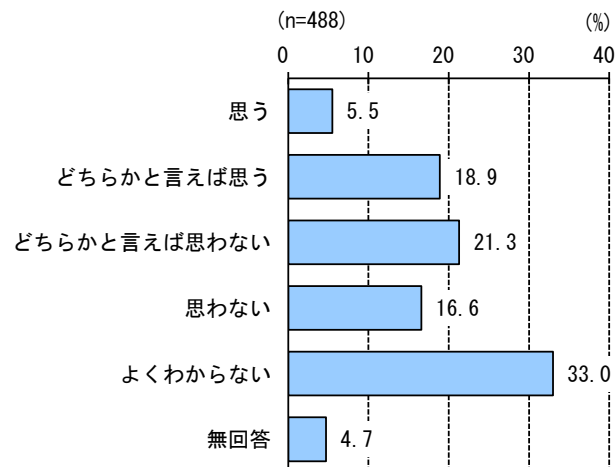
(7) 犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか

問47 あなたは犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。(1つに○)

犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うかは、「どちらかと言えば思わない」が 21.3%と最も多く、次いで、「どちらかと言えば思う」が 18.9%、「思わない」が 16.6%、「思う」が 5.5%となっている。

一方、「よくわからない」が 33.0%となっている。

【図 犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか】

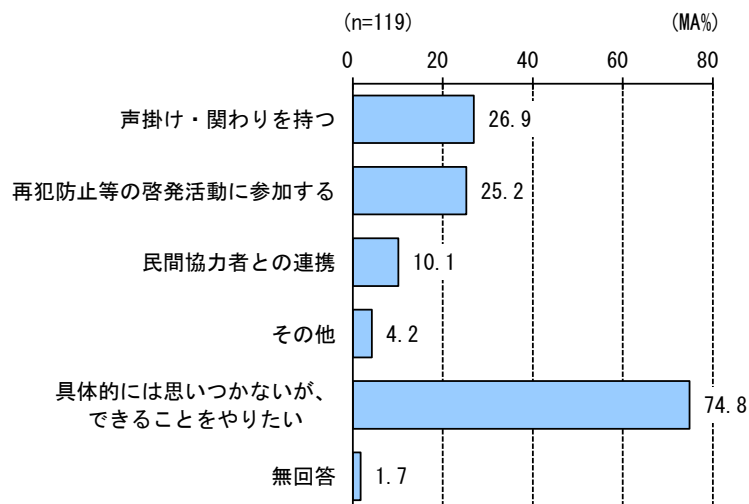


(8) どのような協力をしたいと思うか

問47-1 どのような協力をしたいと思いますか。(いくつでも○)

どのような協力をしたいと思うかは、「声掛け・関わりを持つ」が 26.9%と最も多く、次いで、「再犯防止等の啓発活動に参加する」が 25.2%、「民間協力者との連携」が 10.1%となっている。一方、「具体的には思いつかないが、できることをやりたい」が 74.8%となっている。

【図 どのような協力をしたいと思うか】

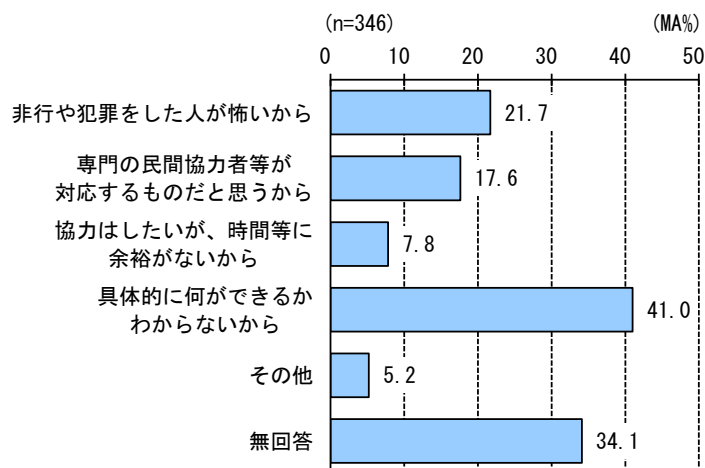


(9) 協力をしたいと思わない理由

問47ー2 どのような理由からそのように思いますか。(いくつでも○)

協力をしたいと思わない理由は、「具体的に何ができるかわからないから」が 41.0%と最も多く、次いで、「非行や犯罪をした人が怖いから」が 21.7%、「専門の民間協力者等が対応するものだと思うから」が 17.6%、「協力はしたいが、時間等に余裕がないから」が 7.8%となっている。

【図 協力をしたいと思わない理由】



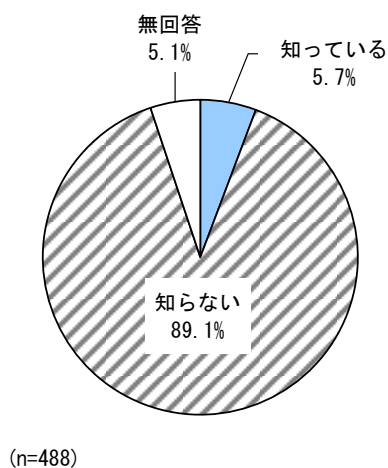
9. 困難な問題を抱える女性支援制度について

(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況

問48 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が令和6年4月1日より施行されたことはご存知ですか。(1つに○)

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況は、「知っている」が5.7%、「知らない」が89.1%となっている。

【図 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況】

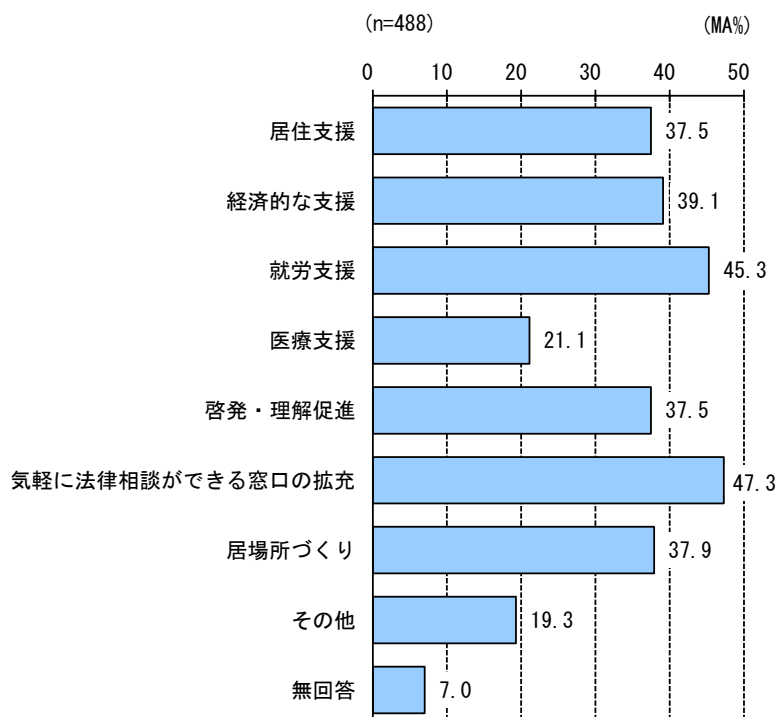


(2) 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきもの

問49 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。
(いくつでも○)

困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきものは、「気軽に法律相談ができる窓口の拡充」が 47.3%と最も多く、次いで、「就労支援」が 45.3%、「経済的な支援」が 39.1%、「居場所づくり」が 37.9%、「居住支援」、「居場所づくり」、「居場所づくり」がそれぞれ 37.5%となっている。

【図 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきもの】

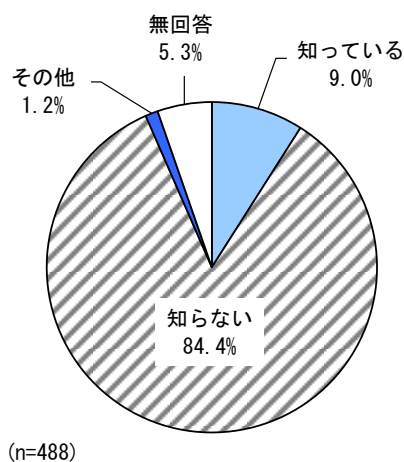


(3) 市役所内の相談先の認知状況

問50 市役所内の相談先を知っていますか。(1つに○)

市役所内の相談先の認知状況は、「知っている」が 9.0%、「知らない」が 84.4%となっている。

【図 市役所内の相談先の認知状況】



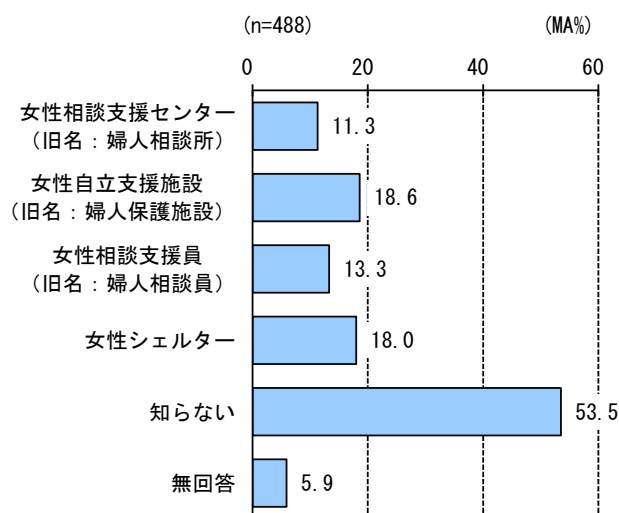
(4) 困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況

問51 困難な問題を抱える女性支援の内容について知っているものはありますか。(いくつでも○)

困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況は、「知らない」が53.5%となっている。

知っているものでは、「女性自立支援施設（旧名：婦人保護施設）」が18.6%と最も多く、次いで、「女性シェルター」が18.0%、「女性相談支援員（旧名：婦人相談員）」が13.3%、「女性相談支援センター（旧名：婦人相談所）」が11.3%となっている。

【図 困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況】



10. 自由意見

自由記載
内容が重く、それに耐えられる体力・健康・精神力・経済等ある人と、負担で逆につぶれてしまう人がいるように思う。今回何を求めようとするアンケートだったのか。個々によって支援できることが違うので、まずは目礼し合う程度でも十分コミュニケーションが回れている場合もあるし、入り込み過ぎてぎくしゃくしてしまうこともある。ハリネズミのぬくもりの関係が保てる近所付き合いができれば良いように思う。いざ災害時には助け合いが行われるはずだ。それ以上深い問題は行政や専門職でなければ難しいのではないのか。
今まで無関心なことが多かったので、情報(知識)を少しずつ入れるようにしたい。福祉活動に尽力されている皆様に感謝いたします。
皆が地域に関心を持つと少し違う方向に向かうのでは…。国とは別に、和光独自の安心できる福祉を進めるのはどうですか？少し多く税金を取っても、老後や子育ての心配がない市に、住みやすい市を希望します。
地域担当の民生委員を増やしてほしいです。地域に、一人暮らし、高齢者がいることを事前に地域の人に教えてほしいです。
・それぞれの立場で意見が言いやすい状況作りがあれば嬉しいです。・声の大きい人だけでなく、小さな声を聞き、海外の人も大切に、一緒に暮らしてゆけるといいのですが。・私自身は皆さんの御迷惑にならぬよう生活することが精一杯ですが(笑)。
我が身は高齢者なので協力はもはやできないが、若い人が心のゆとりがあったら協力してもらおうと良いと思う。知人には知らせてゆったりして喜ばれましたが…。知らない人に声掛けは出来ないものです。
アプリやインターネットなどデジタル技術を有効活用してほしい。
今、仕事しているので質問等に協力できない。今の生活が中心で、でも自分が認知症等になった時にはどうすべきか思うことはたくさんあります。広報は読むだけで余裕がありません。でも不安です。
何を言っても聞かれないから…。アンケートなんてお金かけるのなら道を直してください。和光の道は歩けないです。怖くて…。
地域の外れに住んでいるため、地域活動に参加できない。
現在、自分自身あまり必要を感じていないので具体的な事が思いつかない。ただ、誰にでも衣食住に関して必要な支援をしてほしい。地域福祉と限られると分からない。近所の付き合いが大事だと思います。
長い！親身なのか、何かのたくらみなのか分からなくなる。世の中たくさん問題はありますが、こうしたアンケートは端的にやる方が効果が出ると思う。実際このアンケートを書ってくれた人が何%いるのかをしっかりと把握してもらいたい。和光市はいい町です。
私は年齢が78歳で膝が痛く、協力したいとは思いますが体が言うことを聞かなくて、お手伝いをしたい思いはありますが、出来ることはありますか？
何に関しても相談窓口が充実していればありがたいと思います。よろしくお願い致します。
地域との関わりを持ちたくない人が増えてきているように感じる。高齢になると体力が落ち、外出の回数も減ってきている。明るい老後になるように日々努力し、前向きに生活していきたい。他人へのあいさつ、声掛けをしていきたい。
「福祉に頼ること」＝「依存すること」というイメージが世の中全般に強いように思います(働けるなら頼るべきでない、頼るなら収入を得るべきでない、etc.)。その意識を変えるような広報があると変わってくるように思います。
夫婦2人いる時はいいが、1人暮らしになった時に地域との交流が必要かもしれない。
国の政策は絵に描いた餅。支援する住民の立場になった行政支援が必要。
女性が社会に出て働く世の中で、老人は高齢者住宅、介護施設へと預けられている(私は自分の意志で入所したが)。お金は持っていてはいけないと子ども達に管理され、認知症になればその家族は面会にも来なくなり、おやつの時間に食べたくて来ているかもしれない人もいる。私の知人には、同居の娘夫婦があまり働かず、彼女の貯金と年金をあてにした生活で、彼女自身はデイサービスに通うお金がないと来れなくなってしまった。私は私の全有り金を息子に任せているが、息子も高齢になり、もしもの時は嫁が返してくれるか不安でいる。嫁を信用できなくなっている。
問12に関し、川口市のような状態にならないようお願いします。
今回、アンケートに答えてみて知らない言葉や支援が多くあることを知りましたので、それらを更に積極的に周知、理解してもらえるようにした方がいいと思いました。

自由記載
和光市と板橋区の境目に住んでいるため、市の広報誌が頼りです。そのため、市の活動などをあまり感じられないです。ただ、必要な支援が必要な所へ行き届くことを願っています。
抱える問題は、性別や年齢である程度特定されると思うので、特化したものを情報提供してほしい。
和光市は住みやすく気に入っています。これからも市民のために良いエリアでいられるように頑張ってください。ありがとうございます。
地域の人の暮らしの困難を支えるために、やはり公的な支援が必要と思う。
定期的な調査分析の公開。相談組織の一覧表。
80歳を過ぎてますので毎日どのように健康で過ごせるかがテーマ！！です。
地域福祉は自治会活動に支えられている部分が多いと思うが、住民の高齢化や若い層は地域への関わり意識が薄いなどで、自治会活動の担い手が少なくなっている現実があります。自治会の役員をしなければならないのなら自治会をやめます、という住民も増えました。今まで通りの自治会のやり方では厳しくなっている面も多々あるので、その時の状況でやれる範囲での活動を毎年模索する必要を感じます。
市の相談窓口が親切にまず対応してくだされれば心強いと思います。
自治会や婦人会などの共助の役割を担う組織に対するイメージが良くないものとして先行しているように思うので、「わかりやすく効率的で開かれた組織」というイメージになれば近寄りやすくなると思います。実際、自治会の入会方法やメリット・デメリットを知りたいと思っていても、どこの誰に声をかけていいのかわかりません。気軽に楽しくボランティアに参加できるシステムやイベントを企画したら楽しそうだなと思います。
字が小さくて良く見えなくて困りました。
①納税者の立場から税の公平な使用(無駄な税の使い方等)を考えてほしい。②福祉国家を推進するなら税金のかけ方に政治の力で何とかしてほしい。
このようなアンケートを受ける際に、市内でどのような方がどのくらい(何人)存在するのが一緒に表記していただけると、さらにしっかりと回答できるのではないかと思います。
母は施設に入居。認知症のためこのアンケートの回答を行うことは困難です。母が入居前であれば知っているだろうことのみ記入しました。代(長女)
地域福祉という観点から外れているかもしれませんが、最近特に外国人の姿が和光市にも目立つようになってきました。居住されているのだと思いますが、交流の場や日本の生活になじむような指導・相談の場所はあるのでしょうか？他の自治体のようにマナーなどの問題でトラブルなどが起きるようになっては、お互いに和光市での生活に不安を感じる時がくるかもしれません。
アンケートでいくつか(太字)知ることができました。
和光市には特別養護老人ホームが1つしかなく、入所したい人がたくさんいるのにつくらないのはなぜか？健康な老人を増やす活動はあるが、老老介護や体の不自由な方への支援ができていない。現況を良く見てほしい。
和光市は民間の学童が少ないと思う。朝霞が充実しているので違いに驚く。